

天草狂句

鶴田 功 編著

天草方言特有の豊富な語彙を駆使し、通俗的な駄洒落や頓知豊かなユーモア、表意を突く風刺、処世の妙理や訓戒警句など、川柳の箍を緩め、面白可笑しくことば遊びを試みました。

ああ悔し 一点差でも 負けは負け
ああ寒か 猫と一緒に 炬燵番 (丸うなつて)
ああ寒さ 力仕事が エコロジー
ああ寒さ 持つとる服は 全部着た
ああ辛勞 日暮じゃった 弛止しゆ
ああよっこい 収穫前に 堀たじつて (猪め)
ああらそう 騙され方も 知つとらす
アーンして 昔やアツアツ 今介護 (あぐつちやけ)
アーンして 取つて喰わせて ツバクラメ
愛嬌に 女男は 関係にや (女も度胸)
愛想んにや 猫にや撫で声 こんにやろう
相部屋の イビキに懲りて 逃げ出さす
相部屋の 不運を笑う 高軒
逢えんなら 夜毎の夢に 出て来んね
青田から 飯になるまで 水加減
赤い糸 今じゃ額入り 黒リボン (絆)
上ったり 大型店に 客取られ
赤のれん 関所通らにや 戻られん
明るいねえ 家族の視線 孫に向き

明るいねえ これなら糸も 通しきる
明るいねえ 孫が家族の ど真ん中
秋が来る 祭り男の 血が騒ぐ
秋風と 夫婦喧嘩は 夜は風ぐ (夜鍋)
秋鯖に 一度当たつて トラウマに
秋だなア 虫の合唱コンクール
諦めた 雨音聞いて 一寝入り
諦めた 体がついて いききらん
諦めた 禁酒禁煙 税逃れ
諦めた こつから先や 銭の要る
諦めた こりやどう見ても 勝ち目なか
諦めた 初心な何処か 果行えた
諦めた 胸のところが 合わさらん
飽きられて ちゃんと引き際 知つとらす
呆れ果て 聞きしに勝る 頑固爺
悪業は 因果応報 子に報う (親の因果が子に報い)
悪性打つ アジの釣れ過ぎ 配りまえ (大漁)
朝帰り 犬に吠えられ 嬢も吠え
朝顔 清々しさの すぐしぼみ
朝仕事 出勤前に 汗流す
朝仕事 涼しかうちは 捗がいく
朝っ腹 飲酒運転 取り締まり
朝寝して 夜寝るまでは 昼寝する (永眠)
朝晩の 寺の鐘の音 当てにする
朝昼晩 刺身魚で 食傷気味 (贅沢か)

浅まししか 友の成功 妬みよる
朝飯は 十分あれば 十分たあ
朝飯を 食わん者にや 錢貸すな
味食ろた 天領鯖の その美味さ (ブランド)
味食ろて 鱈ん刺身ば 朝も喰う (天領鱈)
味気なか 賞味期限な 遠に切れ (味見してみ)
味気なか パーティじゃるか ぱっとせん
足腰が 叶うはざは 頑張らにや
紫陽花よ 桜見習え 散り際を
明日こそ 酒の力で プロポーズ
味付けも 嫁が姑の 跡を継ぐ (家伝)
足湯なら 若い女と 混浴も
足湯には 水虫菌を 培養し
明日は雨 膝の疼きで 直判る
アスナロウ 大器晩成 今九十 (明日は大物になるかもよ)
焦がんな 日はまだ高つか 暮れはせん
焦がんな 他によか人の おらすはず (婚活)
焦がんな ぼちぼちせんば 長ごもてん (鈍行列車)
汗きやあた さあ飲もうだ 弛止みに
あせくつて 気に入ったとが 無かちゆわす
あせくつて 肉片探す カレールー
あせくんな ポロが出てくる 内緒事
汗滴 ハウスの中は サウナ風呂
汗びっしより すっぱんぽんで 総着替え
畦道を 通せんぼする 曼珠沙華

暖かい 陽気が桜 開花させ
当たつとる 下二桁の切手だけ
頭下げ 腹の中では 舌出して
頭やくる 戦争放棄ば 良かことに (人道支援)
頭やくる 人質捕って 強請りよる (ISIS)
あちやんなる 空瓶ばかり 場所とつて
あちやんなる あっちいたとけ こん子猫
暑か 言わぬ積もりが きやあ言うた
暑か 仕様ん無かたい 夏じやもね
厚かまし 人ん牛蒡で 法事する (厚顔の微少年)
熱爛が 来るまで待てず 冷やを飲む
熱爛が 五臓六腑に 染み渡る
熱爛で 腹の中から 温もうろ
熱爛に おでんでよかれば かたらんな
厚化粧 言われたくなか 薄毛症 (脱毛症)
当てならん 薬や毒ほど 効き目無か (毒はテキメン)
当てならん 内緒ちゆうとに 喋つとる
当てならん 見ると聞くとは えりや違い
後が良エ 早う真打ち なりなつせ
後が良エ 揺れる吊り橋 お前行け ネット句会4月
後が世話 私がおらんば どうなつと (何もしきらん)
後忍べ 飲んだあんたの 自己責任
後退り 行うごつあなか 歯医者殿
後で良か 残り物には 福ばかり
跡取りに 任せてしもて ほつとした (生前贈与)

後にする エレベーターが ブウていう

あと僅か 狼狽えんなら のさらんぞ

あと僅か 高い買い物 もう出来ん

あと僅か 残った髪毛 超貴重

穴キヤベツ アオムシどもに 試食させ

あの手この手 詐欺の手口も 巧妙に

あの手この手 商売人の したたかさ

新卸 傷つけんごて 用心しゅ

アホらしか 自慢話にや うんざりぞ

アホらしか 惚気話の 聞かるるか

天草大王 味がこりやまた コケツコウ (結構)

天草灘 岩打ち砕く 波飛沫

天草灘 うねる荒波 岩揺する

天草灘 地球の丸み ゆう判る

天草灘 燃える太陽 丸呑みに 潮騒 31

天草の 感謝の遍路 皆の兼宗 (神仏混淆)

天草の 今日あるは 鈴木様 (鈴木三公)

尼の夢 結婚式は 教会で

甘過ぎる 孫の頼みが 断れん

天の邪鬼 すんなと言えば したくなり

天の邪鬼 飲もうと言えば 酒辞めた

雨上がり 傘置き場じゃが 傘捨て場 (処理場)

雨上がり 背中一杯 しゃぼて打つ

雨上がり 山の稜線 ハイビジョン

雨は嫌 お天道さまが だあい好き

雨は嫌 お礼言いたい 天道さま

雨前は せしきやじゃって 構うなな

雨も良か 仕事忘れて 潤憩い

雨も良か 想定外の 暇潰し

謝れど 謝り足らず 戦後処理 (未来永劫謝ろう)

あよっこい たったぎやしこば 出し渋り

あらいやだ 好きなる私も 考えた

粗探し よくも調べた 元の彼

洗わんちゃ そんなま炊いて アラ旨や (無洗米)

有り合わせ 酒の肴は 塩鮭で

有り合わせ 夕食支度 サボタージュ

有り難や お蔭被り 息災に

有り難や お大師様の お導き

有難う ゴミに出す前 手を合わす

有り難う 添うて貰うて 五十年

あります! 躍起になって アラ探し (スタッフ細胞)

ありもしゅう せしきやばってか こりもしゅう

ありや食うな こりも食うなと ダイエット

アルバムに 初恋の人 見付け出す

アルバムに 初子ばかりが 何冊も

あればある スーパーじゃある なかたなか

あればある チラシは総よ パチンコ屋

あれも食い これも食うては 食い残し

あれも塗り これも塗りよる 試供品

あろばまた 今先別れ また会うた
あろばまた 達者うしとこだ お互いに
慌ただしさ しばし忘れて 座禅組む
慌ただしさ 師を追い越して 走りおる
慌つんな 急いで死んだ者 多かもん (急く・塞く)
慌つもん 靴ば見てみる あつちやこつち
安気なもん 親爺がおらんば 昼寝して (ぐうたら)
安気なもん どこに行こうが 何食おが
案じるより 金を呉れたが 有り難か (案じるより団子汁)
案じるより 団子汁食たが 増じやつた
案ずるな 爺がついとる 銭もある
案ずるな 怪我で済んで 良かったぞ
案ずるな 留守宅ちやんと 見張つとく
あんたから 貰うたもんな 名字だけ (授けてやつたろが)
いい笑顔 緊張見せん 球児たち ネット句会 9月
いい笑顔 煩惱なんの つんぶるて
いい笑顔 横綱二人 やつつけた
言い聞かせ あるて思うな 親と銭 (あるのが借金無いのが貯金)
言い過ぎた あれば良かとに 削除キー
言い過ぎる 口のチャックは 閉めておけ
言いたい放題 あれじや長うは 続くみやあ
言いたい放題 俺は市議だぞ 覚えとけ
言いたい放題 権力の座を 鼻に掛け
言いたい放題 批判するだけ 何もせん
いいなあ 代わり代わり 子が介護 熊日7/25

いいなあ 子は総よとも 家建てて
言うておく 親の意見な 聞くもんぞ (百に一つの徒もない)
言うてよし 言わぬがよかか きゃーしんめ
言うとも無か 子に聞かされん 恥曝し
言うなぞと 言われたばつて きゃー言うた (内緒伝言)
言うばかり 体がついて いききらん ネット句会12月
言うばかり 誰でもできる して見せる
家が良か 実感できる 旅が良か
家建てて 男を上げて 嫁貰ろた
いかめしか 仁王立ちして 睨うどる
いかんいかん 赤提灯の 招きよる
いかんいかん 選挙権より 自立しろ
いかんいかん 用心棒を 雇う国
生き写し 似れば似るもん 仕草まで
生き写し 似んでよかとこ 似てくれて
生きちやおる 生かされている どうろころ
生きてこそ 野良で働く 果報者 (死んで花実が咲くものか)
行き損ね 貰い損ねと 結ばれた (縁は異なるもの味なもの)
意気投合 契り結んだ 赤い糸
意気投合 酔いが覚めたら 熱も冷め
活きの良か 腹は無かとに ばて狂う
活きの良さ 肴鉢から 跳び出けて
意気地無し 内はたがりの 外ぼつそり
幾らかな 財布出す振りさすばかり
いけたふう なんちゆう格好 しとるか

潔よき 曾婆あさんに ならしたと

遺産分け 不動産より ゲンナマで

医者曰く 患者あつての 飯の種

医者曰く たまにや替つて みたいもの

医者曰く 値切られんのが いっち良か

医者通い 眠られんちゆうて 昼寝さす (不眠症じゃか)

医者通い お陰で口は 達者かと

異常なし 途端に飯の 味がする

いじらしさ 浪人分を 弁える

いそいそと 旅の前夜は 眠られん

忙つき 盆と正月 一遍に

忙つき ゆたつと飯も 食とられん

行たいちり 戻つても来ん どけ居りろ (徘徊)

胡座 お経が済んだろ 正座する

痛さ痛さ 痛さ一時なんてウソ

痛さ痛さ 竹刀片手に 容赦なく ネット句会4月

痛さ痛さ デッドボールを もろに受け

戴きます 命戴く 感謝して

行たんみゆう 何様美味か ちゆう話し

一度どま 銭の心配 して見ちやあ

一夜にして 安穩破り 地獄絵図

一夜にして 構造物は チャラにする

一回どま いいじゃないの ダメよ駄目 (NON)

一緒くた 分けて資源に すれよかて

一心不乱 四五手先読み 指す将棋

一心不乱 玉追い掛けて 弾きよる

一心不乱 テグスの当たり 探りよる

一日が 無事に終わつて 茶が美味か

一ちよ残し 太つとるけん 痩せ我慢 (痩せの大食らい)

何時迄ん 親にせびろて 思うとる

何時迄ん とつとつともとつとじゃろね

何時迄ん なんかかつて いっしよろだ (あるて思うな親と銭)

田舎道 猪に道 譲らにゃん

田舎道 直其処ちゆうが まだじゃるか

田舎道 じゅつくわりだらけ しゃぼて打つ

田舎道 鉢合わすれば やおいかん

田舎道 道聞こうにも 人気なし

稲荷さん 豊年祈願の 神頼み

犬の餌 またもカラスが 押っ盗つた

胃の霍乱 何じゃかんじゃ 喰クーデータ (鬼の霍乱 || 暑気払い)

猪が 家んぐるりば 去る来よる (領海侵犯)

猪が 人口よりも 多うなつた (過疎地)

猪に 掘り返されて 道普請

猪に 貰た筈 今年初

威張つさが 娘がダンプ 乗り回す

威張らるる 唯一嬢の 前だけは

いましがた 最終便が 出たげなぞ

今時の ヤマトナデシコ いばつさが (ナデシコジャパン)

今になって 過去の過ち 悔やみおる
今になって つくづく思う 親の愛
今になって 泣き言うて 何になる
今になって 嫁になりての おらすどか
いまは今 あがん馬力は もう出らん
いまは今 時代錯誤も 程がある
いまは今 地位も立場も 入れ替わり
いまは今 昔の苦勞 忘れとる
今風に LEDの 迎え火で
イヤすかん 好かんじやなかば 人前じや
イヤすかん ツインがいつちよ 空いとるて
いやなこつ 来世は二度と 添いません(こりこり)
嫌になる ドローン買って ドロンしゅう
要らんかい 貰うた歳暮は 子に孫に
入れ替わり 流れる水は 腐らない(新旧交代)
色褪せた 亡夫の表札 守り神
色褪せた 花の命と 吾が命
色気づき 茶碗が小に 替わつとる(ダイエット)
色付いて 錦秋愛でる 紅葉狩り ネット句会11月
色付いて 真つ赤なりリップ 魔女環奈(橋本環奈)
色付いて 山は有終の美飾る
イワシ焼く 囲炉裏の暮らし 懐かしか
いんま見とれ あの悔しさは 忘れ得ん
いんま見とれ 捲土重来 期するごつ
いんま見とれ 次期横綱に 手応えが ネット句会10月

大騒動 全員集合 孫8人(だから子宝)
上は上 下見て暮らせ 慎ましゅう(上は切りなし)
ウエルカム オリソピックで お持てなし
ウオーキング 帰ってくるまで 気が気じゃか
ウオーキング 日の出を待つて 夫婦連れ
ウオーキング 他にすること なかつかい
ウグイスの ぐぜり鳴きすりや 興ざむる
ウグイスの ハツカ舐め舐め ホーホケキヨ
憂さ晴らし 珠にや釣りに 果行こう
憂さ晴らし 酔いのまわれば 下克上
胡散なか ただの仲じや なかごたる
胡散なか なかなかなかな 当たりクジ
胡散なか 逃げ込みじやろう 入院な
嘘じやもね ナマズ地震に 昼寝して
嘘じやろう 禁煙したと 五度も聞く
嘘じやろう ネズミに会うて 逃ぐる猫
打ち合うな 喧嘩する気は 更に無か
打ち上げば 外国人も すっちゃいろ
打ち止みゆう 怪我どんすれば 馬鹿らしか
団扇より 扇子のほうが センスある
打つ杭を 食い入るように 見る家主
うったって どけ行きなすか いそいと ネット句会2月
打って付け 愛嬌よしが 受付に
打って付け 打っ付け大工 腕自慢
打って付け 声のふとさで 幹事長

打って付け 出しゃばり過ぎて 弾避けに
腕まくり 捻り鉢巻 いらっしやい
腕まくり さあいつちよう 仕掛るか
打とうにも 杭は出過ぎりや 打ちきらん
鶺鴒の目鷹の目 相手候補の 粗探し
鶺鴒の目鷹の目 妬み嫉みの 目が怖い
鶺鴒の目鷹の目 掘り出し物は 無かるうか
鶺鴒の目鷹の目 有名人の スキャンダル
鶺鴒の目鷹の目 わずかのミスも 見逃さん
乳母車 車社会の 初体験
乳母車 乗せた子が押す 車椅子
旨い柿 飲んで食べたなら 酔いが醒め
旨いさんま お隣さんも 焼きよらす
旨いさんま 腸まで食うて 猫も食わん
梅の花 道真公の 稼ぎ時 (太宰府天満宮)
怨むより 恩を忘るな 人の道 (恩人)
熟るる程 穂首が傾く 黄金糰 (小金持ち)
熟るる前 ヒヨが金柑 突っ抉じる
嬉しかね 搗いた餅より 心持ち
熟れたるか スイカは既に 鳥が食い
売れに売れ 何時まで景気 続くりろ
うろ覚え はつきりした事あ 嬢に聞け
狼狽えて 熱か味噌汁 ひん飲んだ
狼狽えて 飯は噛み噛み 出て来らす
狼狽えろ 最終便に 間に合わん

潮騒 31

狼狽えろ さつさ搗かんば カサコック
噂では 尾ビレがついて 泳ぎよる
上ん空 耳は時々 休まる
産んだ子が 育てられんじや 胸え来ん
運の良か 三途の川で 引っ返し (Uターン)
運の良か 初心者ばって 鯛釣った
運の良か 新年早々 大当たり (高額当選)
運の良か 高額ジャンボに 当たらした
永眠か あがんだ寝たとに まだ寝とる
ええ手際 いつ嫁つても よかごたる
ええ手際 器用貧乏 人助け
ええ身分 子は宛ごうて 飲み会に
笑顔 ことばに勝る 心地よさ ネット句会11月
笑顔 黙っていても 気が和む
駅伝の タスキトレン取れんで 繰り上げに (train)
えげつなか 他人が失敗 吾が手柄
えげつなか わーがばっかり いい格好
エコライフ 電気消したりや 子が増えた
エコロジー 湯たんぽ代わり 猫と寝る
絵空事 済まされんとか 稼ぎ面 (年収)
えづらしか 目の縁や青か お岩さん
えづらしか 釣れれば釣るる 配らにゃん
得手勝手 吾が良か面 つくる気か
恵比寿顔 心残りは 何もなか (にっこり・ぼっくり)
恵比寿さん 埃被って 苦笑い

えらい勢い 海外店舗 増やさした
えらい勢い 出世街道 つつ走り
えらい勢い 飛ぶ鳥落とす AKB
選り好み しよる間が 花だった
選り分けて 銭にならした 自家消費 (地産地消)
選り分けて 服喪見舞いの 多かばい
LED 丈夫で長持ち はげ頭 (発光ダイオード)
LED イルミネーション 大流行 (青色ダイオード)
エレベーター 片足挙げりや ブーが止む
エレベーター 最後に乗れば ブウという
エレベーター 最後乗つとば 躊躇わす
縁側で 耳垢掘じくり 膝枕
炎天下 脳うっだすぞ 憩わにやあ
炎天下 ものともしない 球児たち
縁の無か 年の差なんの 言うとれん
エンブレム 外野席まで 騒ぎ出し
エンブレム フリーハンドで 描きたい
エンブレム 水戸黄門が 呆れとる
閻魔の眼 心の奥を 見透かして
延命で 意識なかとに 愚うらしか
遠慮無し 財産よりも 銭がよか
遠慮無し 出戻りが幅 きかせとる
おいおいと 言うなぞ老いが 近うなる
おいそれと ちいて行くなぞ 大事する
老いたつちや ときめきたかよルージュ引く (晩熟老恋)

老いの一徹 子に従うた まだ早か
オーイお茶 手為い飲まんば 持つて来ん (セルフサービス)
会うて話そ メール見たねと 電話さす (文明の利器)
横道さが 他人は構わず 吾道
仰うなけば どしこでん入る 上戸口 (漏斗)
大食らい 口に旨かた 腹にや毒 (腹八分)
大声で 応援団が 加勢さす
大声で 内緒話は できん人
大声で 間違うたつちや 気にもせん
大声の 見舞客には 困り果て
大地震 この世の邪気を 振り払う
大地震 自身で避難 自信ない
大地震 自然破壊に 鉄槌か
大相撲 これでホントに 国技かい
大掃除 どっからすつとう 居間でしよう (今でしよう)
大助かり 器用貧乏 人宝 (世のため人のため)
大違い 聞いて極楽 見て地獄
横着な わーが領土に しなしよる
おお冷てえ 節電便座に 跳びあがる (条件反射)
大広間 這うて座って 寝そべって
オール電化 こつで世話無し 嬪殿下 (電化：殿下)
お陰様 人は一人じゃ 生きられん
おかしかぞ 灯りも点かん 戸も開かん
おかしかぞ 若作りして 出掛けらす
おかしかね 神を信じて テロリズム

おかしかね 聞いて貰うた だけじゃって
可笑しかね 君麻呂だけは 本音言う
おかしかね どこせせつても 良うならん
拝みたい 今年は富士の ご来光
拝みたい 下げた曾孫の 晴れ姿
起きなさい 起きろちゆうとに コラ起きろ
沖繩が 東北よりも 寒そうで
置きみやげ ぽんと大金 寄付さした
お客人 子どみやあっち よし退けぞ
置き忘れ 雨が止んだら 用事や無か
怠るな 生前贈与に 子の 躰
おごられたごて我が子にも おごりよる
お下がりか 次男三男 俺や嫌だ (新品が欲しい)
お下がりは 案山子になつと きやあ着しゆう
お騒がせ 勝ちに拘る 役相撲
お騒がせ メトロのドアの ベビーカー
惜しいこつ 白髪抜き過ぎ 禿なつた
押し切つた 烏合の衆の 多数決
惜しげなく ぽんと大金 寄付なさる
お四国の 巡礼地から 砂貰い
押し黙る 妻と黙つて 飯を喰う
押し並べて 作況指数 去年並
お喋りが 口に付けたか 万歩計 (一万語)
お喋りが メインディッシュの 同期会
教ゆるは 学ぶの半ば 遠回り (生涯学習)

おぜえこつ 仮設住宅 不自由かる
おぜえこつ スタップ細胞 見つからん (溺方)
遅くとも せんよりはまし 親孝行 (早よせろ)
遅くない 苦い経験 バネにする ネット句会4月
遅くない もう一花咲かせましょう
遅すぎる 離婚したのに 子ができた
遅すぎる 三歳過ぎて 子の躰
煽つんな 調子に乗つて 歌止めん
穏やかな 母の笑顔で 頑張れる
落ち込むな それがどうした 奮起せろ
お茶席の 作法知らんば 笑わるる
おちよくつて 声掛けたつちや 知らん振り (よか女御)
お猪口から グラスに替えて 宵の月
おつきあい 菓飲み飲み 三次会
おとととと あわや倒産 駄目夫
おとととと そこは親爺に ととととと
戯けとる 火男踊り 撮つととと
男しにや 産みの辛さは 解らんど
男じやろ 我慢しきらん 筈が無か (しきらん時もある)
男とは 度胸ばかりじゃ 渡られん ネット句会2月
男とは 無口のほうが 良かごたる
お年玉 数は減つたが 額が増え
お年玉 孫のガマガチ あぐつちやく ネット句会1月
お年玉 貰うた覚えは 更に無か
大人しか 遣られたらうば 遣り返せ

大人つさあ 子どんがときや 忠実まめかった

驚きました 引きの強さに 力づく

驚きました 孫が留学 するて言う

お手のもん 活き作りなら 任せとけ

お隣は蒲焼きうちは臭いだけ

鬼火焼き 悪霊あくりょう払うて カップ酒

お花見の ブルーシートで 占ひな拠ひとり権

お雛さま 片付け忘れ まだ独身

重おぶかるで 今月腹こんげつはらは しゃっしやって (臨月りんげつ)

お袋の 口癖真似て 腹八分

お袋も 妻も嫁じよも 母の日か

お遍路の 心身清め 般若湯

覚え書き そがんた書いた 覚え無か

覚え無か そがん約束 したつどか

覚え無か 昔のこたあ 婆ばあに聞け

おぼつかねえ かじられた脛すねで 支たえにゃん (スネかじり)

お祭り 踊まってハイヨ 見てハイヨ

お土産みやげに 買った積たもりが きゃあ飲のうだ

お土産の 大吟醸は 話しだけ

お迎えよ 聞こえん時や お迎えよ (オーイ老い)

おめくなど 人差し指ひとさしゆびで 口塞くふさぐ

おめでとう 今年の干支としは 何年なんどししよ (なくんしよ)

思い出す お蚕お蚕さんは お座敷お座敷に

思い出す 小父おとうの出兵 旗振はたって

思い出す 好きおれちや言いえず 純まじやった

思い出す 竹槍たけやり構かえ エイツヤー

思い出す 防空壕ぼうくわうで ナマンドブ

面白くない 貸かした元手もとで 儲たくけだし ネット句会ネットくわい1月

思おもたごて はつきり言うて 嫌きらわるる

お持もてなし 受うけた昔むかしが 懐なつかしか (隠ひれ家の里)

お持もてなし 裏うらも無なかとが いいつちよか (表裏へうり一体)

お持もてなし 感謝かんしゃ感謝かんしゃの 巡めぐり地

お持もてなし 昼ひるの部屋へやが ややっぱ良よか

お持もてなし 亭主ていしゅ八杯はちばい 客きやく二杯にばい (裏うらはある：手酌てしやく)

徐おもむろに 腰こしをもちやげて 後ごの先せんで (双葉山)

親爺おやぢ居いる？ 妻つまが即答い 要いりマセン (no thank you)

親爺おやぢ留守 本人ほんじん自慢はた 側はた我慢

親爺おやぢ留守 齋い練れんり出でして 数かずえらす

親おやとなり 子こを持もって知る 親おやの恩

親おやの真ま似に 見みよう見み真ま似にで 作つくりよる

親おや離りれ 運動うんどう会かいにや 来きんちやよか

親おや米い寿じゆ 還かえ暦れきの子こに お小遣おこづかい

親おや譲じやうり 他所た所の息いき子こば 見みてみみさい

親おや看かん取る 子こに看かん取とられて 順じゆん送そうり

お湯お湯割わりりの 芋いもの臭においに ホほットする

お呼よびじやか せせからしかかつが 混まぜくつて

居いらっさん 足腰あしこ鍛たえて 良よし悪わるし (徘徊はいかい)

おおりや知しらん 見みざる聞きかざる 関かわらず (沈黙しんもくは金)

俺おれえ勝かか 自おれ信しんのああれば 掛かかつてけえ (逃にげるが勝かち)

俺おれオレと 言いうののに妻つまは 電でん話わ切きる (オレオレ詐欺さぎにご用心)

オレオレに 引つ掛かったりや せんどもん

オレオレに 振り込ませたい 所得税

オレオレの 騙す手口も 国際化

俺がする 俺がせんなら 誰がする

俺の椅子 何時の間にやら 妻の椅子

オレは外 鬼が豆撒く 節分会 (鬼はウチ俺はソト)

おれば邪魔 出掛ければ事故 世話なこつ (粗大ゴミ)

俺は暇 猫に手を貸してもよかよ

俺よりも 病院代の 掛かる猫

下ろしたて 辛か大根 俺好み

下ろしたて 一寸の傷が 気に掛かる

おろみぞか 来世も一緒と 猫に言い (オレより猫かよ)

恩着せて 受けたご恩は 忘れとる

温泉な 良かばつやっぱ 我が家の湯

温暖化 ガソリン依存 脱却か

居ん為すか 独居老人 声掛きゆだ (安否確認)

女風呂 井戸端の後 会議中

かあさんは? ただ今よりも 先に言う

かあちゃんの 笑顔で今日も 頑張れる

カーナビに 周辺に来て 見放され

カーナビに 載っても居らん 人気無し

カーナビは 間もなく左 ウソ教え

飼い犬が 力関係 ゆう見とる

開演を 待ち草臥れて 欠伸する

買い換ゆう 先見通せる 眼鏡なら

介護イヤ 相続権は ちゃっかりと

会席は 良かばつやっぱ 母の味

買おうばつて どこまで値引き さすもねろ

替えられん 千の蔵より 子は宝

抱え得ん 漬け物重石 重過ぎる (妊婦)

嬢殿下 ビフォーアフター したもねろ

かからせん こなし壊せば 物えならん (Don't touch it)

掛かり付け 菓はツケの 利かんどか (効かん)

柿食うけ 旨か熟柿の 千切りたて

限ん無し あるて思うな 親と銭

欠き餅どん 噛みなつせんか 小正月

限りある 人生だけんと 今日も飲む (百薬の長)

核持つて 核持たせんと あろうかい

掛け金は 溝に捨てたと 同じこつ (消えた年金)

駆け込もうで 何か無かかな 腹減った

掛け声ばかり 金はあるが 出すとなら

駆け込ます 無塩の鯖に 腹損ね

掛けとつて オリが眼鏡は 知らんかい (我が目は見えん)

託つけて 三度も叔父を 死なせよる

籠に摘む 花の冠 蓮華草

過去のこと なまじ詮索 せんがよか

籠の中 何時から始終 シジユウカラ

籠の中 自由が欲しい 開けゴマ

カサカサ 荒れた母の手 じつと見る (ネット句会4月)

カサカサ 背中搔く母の手愛し

貸した物 呉れたと 思うて あきらめろ
柏手に 弘法大師の 苦笑い (神仏集合)
風邪薬 風引いとれば 効き目無か
風邪引いた ちった気持ちの 緩うどる
加勢人な 頭数だけ 揃わした
がたがた ゴトゴトくねる 田舎道 ネット句会 8月
がたがた 抜かすな俺に 任せとけ
カタカナ語 意味もゆうゆう 知らっさん
カタカナ語 使えばちった 偉う見ゆる
片付かん 勿体のうして 捨てきらん
片付ける 飲うだ後は 様態して (散乱)
かたっぱし 出された料理 平らげて
がたのきて 骨が鳴りよる 古稀古稀と ネット句会 2月
形見分け 貰うたばって どがんしゆう
活気無か どがんかせんば いかんばい
かっとしゆう 稼いだ銭は 使い切り
かっとしゆう 貰た年金 薬代
合掌し 無病息災 寺詣で
合併で あかねすいととは 何処ちゆかい
家内留守 卵掛け飯 手間要らず
家内留守 一人昼飯 皿も留守
家内留守 良かちようらいで 飲みよらす
金じゃない 言うのは持った 人ばかり
金なるある 行たち来うか 温泉に
金なるある 昨(きのう)日(ひ)年金 下ろしたつ

金なるある 不老の薬 無かもねろ
金なるある 持て余すほど 暇もある ネット句会 2月
金になる テロの標的 日本人
金はある 暇もあるけど 遣る気無か
金は出す 非軍事支援 金だけか
金儲け 大取りするより 小取りせろ
金持ちには 金を使わず 金貯める (投資)
金持ちには 身銭切るこた とんとせん
彼女との 夢にひよくつと 妻が来て
彼女とは わざと別々 写りよる
壁ドンで ベニヤ板壁 うっぽぎやた
我慢出やあて 気張って腰は ひん曲がり
我慢出やあて 子に残そうて せんちやよか
我慢出せぞ 稼ぎに追いつく 貧乏なし
我慢我慢 我慢も限度 打ち切れた
我慢我慢 灸の皮切り 次は楽
神構うな 仏放つとけ 崇り無し (廃仏毀釈)
紙コップ 注いだ端から 吸いよつて
紙コップ 早う注がんと 吹き飛ばす
神頼み 頼みっぱなし 利益なし
神頼み もつと賽銭 張り込まじや
雷は 金目のものが 好きらしか
雷を 蓄電すれば 良さそうな
蚊帳の外 関わるよりも 出てはちけ
から一生 嬢にや頭 揚げきらん

唐芋に 鯛の菜で 育ったと (食糧難)

唐芋の 茎も根も食て 凌いだぞ

カラオケに あまり誉れば 逆上せらす

空くじに 当たった者な 符の悪か (タヌキの宝くじ)

ガラクタばかり いつか役立つ 時が来る

ガラクタばかり 使えるさは 役立った

ガラクタばかり でも断捨離は できません

ガラクタばかり 悲喜こもごもの 詰まっとる

ガラクタばかり 勿体なくて 捨てきらん

ガラクタばかり 役目果たして 忘れられ

烏奴 犬の餌まで 横取りし

借りた傘 雨が上がれば 邪魔になり

借りた金 お貸し下され 幾久しゆ (催促無し)

加齢臭 カレーの臭い 好きぢゆわす

加齢なる 一族になり 先がねえ

カレンダー 年金日だけ メモのある

可愛くない 恩師の之恩 忘れとる

可愛くない 自分の手柄 ひけらかし

可愛けりや 旅費頂戴と 脛かじり

買わないと 損するようで つい買うた

瓦葺き 流れ作業の 伝供取り

変わり果て かつてはオトメ 今フトメ (ミトメます)

変わり果て 金持ちだった よめりさき

願掛けて 頼んでばかり 利益なし

考えて 考えた末が この程度

考ゆう 偕老同穴 俺や嫌ぞ (共白髪)

考ゆだ 自然な有限 代替えば (代替エネルギー)

考ゆだ 遣られつ放し 良かもねろ (無抵抗)

顔黒は 今じゃパンダの 眼黒に

関係ねえ 見ざる聞かざる 気が利かず

勘定は そけ置いとって 手の抜けん

簡単ぞ 手抜きじゃなかと エコロジ

感謝して 俺がオレがの 我を捨てる

爛つけば 待つとる間 冷やを飲む (待てないの)

感動すつ まだ喝采が 鳴りやまん

乾杯 飲みつ飲まれつ もう一杯

看板の 猛犬注意 チワワ吠え

還付金 無いも同然 妻のもの

勘弁してくれ またの値上げに 音を上げる

勘弁してくれ また税金の 無駄遣い

還暦で 第二の人生 踏みじゃーた (赤ちゃんちゃんこ)

気合い入れ 寒さも寒さ 寒稽古 (大寒)

聞いてやれ 愚痴もお茶も 飲み込もうで (飲兵衛)

議員ちゆて 為にやならでん しこつとる

気が合うて 一期一会の 旅の宿

気が気じやか 帰りが遅か 日暮れ道

気が気じやか 大型台風 まっぼうし

気が気じやか 孫が一人で 来い来りろ

気が知れん イスラム国に 志願兵

気が知れん 散らしたなーり 果行かす

気兼ねして まごついとれば 結ばれん
利き酒で 五臓に効いて 酔い潰れ

効き過ぎて 今夜飲まんて よかごたる ネット句会1月

聞き飽やた 明日からにする 休肝日

聞き飽やた なんやまたそん 話しかな

聞き飽やた 他にや話題は 無かつかい

菊薫る 蘊蓄要らぬ 紋所

菊薫る 大輪もよし 野菊でちや

菊薫る 丹精込めた 一文字

菊薫る 武者人形に 蝶が舞う

菊薫る 里の祭りも ひっそりと

聞く耳は 持たぬ頑固が 聞き流し

聞こえとる? どうせ聞く耳 持たん爺

喜寿祝い 同窓会の 生ン比べ

喜寿傘寿 もうひと花ば 咲かしゅうだ (起死回生)

偽善でも せんよりは増し まず支援

汚かね たまればまあだ 欲しゅうなる

北枕 迷信じゃるか 良う眠る

鍛われて もう加勢には 来らっさん

貴重な時間 感謝の祈り ナマンダブ

貴重な時間 出勤前の アイメイク

きつとごえ 一斗筵で ドジョすくい (安喜節)

来とらっさん 介護でつれに つき添うて

気に入つて 嫁にしゅうばつ 若過ぎる

気に掛かる 電気も点かん 戸も開かん

気に食わん 貸した元手で 儲けだし

気に食わん モンゴル横綱 国技かよ (モンゴル支店)

気にすんな 俺の奢りだ 飲んでくれ

気にすんな 会長さんが 払うてた

気にすんな 釣れんだったら 魚屋で

気にせんで 紳士トイレは 空いとるよ

衣着せず 本音で言える 風呂談義

気の合うて 肴もいらん 友と飲む

気の毒つか 稼ぎも得んで 旅行して

気の毒つか ゲートボーラー 穀潰し

気の早さ 刺身小切つと 待ちきらん

気の早さ もう打ち上げの しこうさす

気の早さ もうしこうして 待つとらす

気晴らしに クレー射撃で 腕試し

気晴らしに タコ二三杯 捕れば良か

気張んなす ぼちぼちせろな 明日もある

キビナゴは 爪先だけで こう開く

寄付集め 渋り面する 門構え (持った者は持ちたがる)

着膨れて メタボじゃ無かよ 腹捲り

ギフト屋が 母の年忌を 知っており

気分転換 鯨どん釣りぎや 果て行く

気分転換 弁当下げて ピクニック

気まぐれが 維新立ち上げ 威信掛け

気まぐれが 新党とやら 立ち上ぐる

気まぐれが まあた病院 替えとらす 熊日11/20掲載

君は偉い 相手をたてて 足るを知り
君は偉い 言われる前の 気働き
君は偉い 知らん振りして いっちよかす
君麻呂は ずばずば言うて ウケ狙う
決めとつと 後はあんたの 意のままに
決めんでよ 彼女なんかじゃ なかですよ
肝つ玉 敵も味方も 騙しきる
貝堀りぎゃ 子どんば連れて きゃあ行こだ
きゃあ眠とる 児はおっぱいに ぶら下がり
きゃあ眠とる テレビ放送 砂嵐(アナログ)
きゃあ忘れ スリッパのまま バスに乗り
きゃあ忘れ まあだブランド 走りよる
きゃあ忘れ 見た顔ばつて 名が出らん
逆転に 運で片付けらりゆうかい
逆転に 余りに議席 やり過ぎぞ
キャンプ場 父ちゃん俄然 張り切らす
キャンプ場 火の熾し方 子に教え 熊日8/22掲載
救援に 頭の下がる ボランティア
救援に ヘリコプターが 吊り上ぐる
救援に 寄って集って つつ立って
救援の 余ったにぎり 捨てらした
球児等の あの冷静さ あの笑顔
今日はダメ 急に言うても 泊まられん
教育を! 世界を変えた マララちゃん
狂句には 仮想空想 膨らまそう

狂句には 人生訓を 練り込いで
餃子喰て 息の臭さ 吾知らず(吾が屁は臭うなか)
今日祝儀 お湿替えた娘 お召し替え
兄弟に 短気と暢気 生み分けて(同胞)
キラ炭を 知る由もなし 烏帽子抗
限りが無か 勝つまで相手 させらるる
キリギリス 仁丹舐めて 唄いよる
ギリシヤ危機 財政難は 余所事か
ギリシヤには ギリシヤの立場 ギリギリの
義理チョコで 飲む酒何故か ほろ苦か
器量より 愛嬌よしが 俺は好き
きれいな字 教養までが 滲み出て
きれいな字 性格までが 現れる
きれいな字 若かりし日の ラブレター
綺麗からす 誉められたとは 胃の写真(内視鏡)
気は心 粗茶つちやあれば 有り難か
禁煙は 十回はした 経験者
きんきり舞 忙しかとも 善し悪し
金婚は バランスシート 釣り合うて(ベストカップル)
吟醸酒 飲んで飲まれて また飲んで
吟醸酒 もう一口が 止められぬ
限の無か 何時まで親に かるわるる
金メダル 只の金属 そりやなかる(ノーベル賞)
禁煙の 本を片手に 一服し
食い過ぎる 後半分な とつとつと

喰いっぷり どしこ炊いても 喰て仕舞う
喰いっぷり 瘦せる菓は 飲みながら
喰いなつせ 冷えてしまえば おろ旨か
喰い残し もうねまつとりや せんどかね
偶然に 夢見た友と 再会し
食うときは 家族揃たが やっぱ良か
クーラーが 隠居する筈 秋の風
クーラーを 点ける消やせで うちわもめ
愚うらしか 延命措置で 生かされて
愚うらしか 助かったとは 子どもだけ
愚うらしか 魂やうつちよき パーになり (後出し?)
草だらけ 引いても引いても 直き生ゆる
草筆り 草臥れた頃 草も枯れ
薬屋に 卸せる程の 飲み残し
愚凶郎兵衛 ほんに手の要る 子じやったが
糞っ垂れ 自慢の糞は 犬も喰わん
糞ナビが 間もなく左 ウソ言うな (カーナビ)
草臥れた 小昼もせんで ぶつ通し
草臥れた 弛止せんば 長ご持てん
くだらない 真を問うての 選挙げな
くだらない 都構想げな 止めとこう
くだらない 飲うで約束 真に受けて
下り坂 膝が笑うて なよなよと
口喧嘩 言いたかこたあ 明日言え
口下手は 本音を言うて 損をする (物も言い様)

口ほどにや 何の役にも 立たっさん
口や開けて 何ぼとぼけて 見とつとな (呆気)
口や堅か 言うたくせして スピーカー (有言)
口汚し 試食程度じゃ 物足らん
くつ喋り 手の内までも 証しよる
くつ喋り 話し上手の 仕事下手 (手は休み)
くつ喋り 話のネタも あればある
来つちゆうて 来はせんばつて やっぱ待つ
グッドタイミング やつと乾杯 間に合うた
グッドタイミング 長い祝辞が 今済んだ
来つとなる 夜が更けたつちや 待つとくよ
暗いうちから 新聞配る 苦学生
暗いうちから チャルメラ吹いて 豆腐売り
暗いうちから もう豆腐屋が 売りに来た
暗がりだ そつと抱きしめ 初キツス
暗がりだ まだ見ゆつとね 野良仕事
クラシカル 七草粥の ベジタブル
暮らし向き 大概てげが いっち良か
暮らしよい 所求めて 避難民
クラス会 ニックネームで 呼び合うて
暗隅で 気づかんだつた じゅっかりに
暗隅で 蹴躓じいて きやあ転だ
暗隅で ようよ鍵穴 さでじゃあた
ぐらちいた 地震予報は 当てならん
ぐらちいた 美人のママに 誘われて

ぐらついて 自前無くなり 総入れ歯
ぐらついて どうも一人じゃ 決めきらん
ぐらついて ヒヤツとさせる ハシゴ乗り
ぐらついて まだ決心の つかんふう
ぐらりする 作物荒らす イノシシめ (共存共栄)
ぐらりする 戦勝国で 威張つとる
クリスマス 一夜限りの クリスマスチャン
クリスマス 禅宗ばって 肖ろう
来れば来る 次から次い 入れ食いぞ (アジ釣り)
苦勞掛け 母の手握り ありがとう
苦勞知らず 脛つかじりの 歯の白さ (クロと白)
暗うなった 日暮じゃった もう上がる
黒光り 大黒柱 威厳在り
経験豊富 失敗の数こそ強み
経験豊富 辛酸舐めて 今がある
経験豊富 歳は伊達にゃあ とつとらん
経験豊富 一つ言うなら 十解る
経験豊富 やり損ないが 大概ある
経験豊富 やり損ないも 治させた ネット句会1月
経験豊富 やり損ないを 糧にした
稽古中 じゃがチャツチャより 増しな声
携帯と 亭主の操作 指一本 (remote control)
ケイタイに 用が無か時や 不携帯
敬老会 行くとはいやだ でもタダだ (御樽歓迎)
毛が無しで ヘルメット無し 良かちゆわす

下戸同士 ウーロン茶注ぎ カンパニー
藁稲掘り 稲漕ぐ迄は 待ちきらん (代用食)
血圧が 看護師見たりや 跳ね上がる
血圧が どうも納得 いかんふう
血圧を 納得いくまで 測らする
結構なこつ 既に戒名 貰うとる
結構なこつ 悠々自適 医者知らず
限界ぞ 我慢に我慢 ひとつたつ
元気がでる 山頂までは もう少し
元気がでる やつとあの娘と 結ばれた
元気な嫁 一番風呂も 何の其の
元気な嫁 里の仕方に し直さす
健康で 長寿に感謝 神仏
剣道で 子どもが挑戦 ドウしよう (胴)
剣道で 子どもに負けて 面食らう
剣道で 子どもに遭られ コテンばあ (籠手)
剣道は 子どもと対戦 もうシナイ (竹刀)
原発に 頼らんエネルギー 太陽光 (クリーンエネルギー)
鯉のぼり 近頃あんとと 泳がんと
講演会 一番前は 眠られん
講演会 眠とった癖に 拍手する (夢うつつ)
講演会 拍手の音で 目の覚めた
好機到来 合鍵そつと 手渡され
好機到来 上司退職 順送り
好機到来 東京五輪 金奪取 ネット句会9月

好機到来 ピンチヒッター ほくそ笑む

高級車 歩けと言うた 医者が乗る

高級車 今度乗るのは 霊柩車 (お見送り)

甲子園 まず砂袋 用意さす

工事中 毛が怪我なかばって ヘルメット

強情か 言うてもとても 聞きもせん

買った後 新製品の ダイレクト

広大か 家の前庭 飛行場

買うところ こうとかばって 先で着ゆう

効能書き 読み得るところに 効き目あり

傲慢な 領土侵害 軍事基地

子が巢立ち 二階は要らん 如てなった

古稀古稀と 骨が鳴るなり 足と腰 (子規の子孫の句)

古稀爺に 米寿の婆が お年玉

ご機嫌斜め 結婚記念日きや忘れ

ご機嫌斜め 電話もせんで 朝帰り

ご機嫌斜め 待っていたのに 外食し

小切りたて 無塩ですばい なめなつせ

極楽にや どうも行かるる そうに無か

極楽は こがんもんかと 朝風呂に

極楽は 信心過ぎて 通り越し (過ぎては…)

コケー此処 卵もつたと 知らせよる

此処さん来え ととこれ座れ 飲うでみゆい

心うきうき 旅行鞆の はち切るる ネット句会12月

心うきうき 旅行前夜の 服選び

莫蔭敷いて 日陰で小昼 広げらす

コスモス 風に倒され 起こし申す

個性的 誉めようのない 誉めことば

午前様 飼い犬にまで 吠えられて (門限)

子育てにや 掃き出すごて 銭の要る

こそばいか 来世も一緒 ねえあんだ

子沢山 親の介護を 譲り合い (謙譲)

子沢山 育てた親を 誰も看ん

拘って 自産自消の 手為醬油 (手作り)

小使いは 大使いより ふとうなる (安かろう高かろう)

コックリも 賛成票に 数えられ

ごつち飯 蓋ば取つとが 早過ぎた (赤子泣いても蓋取るな)

ご馳走受た 酒に飲まれて べろべろに

ご馳走受て 泊まった上に 土産まで

こつで仕舞あ 今年や不作で 買うて食う (保有米)

こつでよし 明日死のうが 死ぬまいが

コッパ団子 貧乏の味 忘れ得ん

ことごとく 俺の予想は うつ外れ

諺は 語り継がんば 消えてゆく

諺に 処世の冥利 論しよる

断れず 要らんもんまで きやあ買うた

断れず また役職を 引き受けて

子に持たす 有り金全部 つんぶるて

この暑さ 命短い セミが鳴く

この暑さ 打ち水なつと してみゆうか

この暑さ 草臥れ果てた 野良仕事

この暑さ 引いた雑草 参ったか

この寒さ 遭難記事に 身も凍る

この寒さ 白い息吐く 通学児

この歳で いくら何でも 派手かろう

この分なら 近くて遠い 国になる

ご破算で願ひましては 離縁なり

子は巢立ち 夫は冥土 これからよ (第二の人生)

子は巢立ち 悩み無用で 良かいちり

コブ付きで 二人貰うた 如たるふう

困ったもん 雨ばっかりで 捗らん

困ったもん ふとか台風 こっち来る

細々と 言い聞かせて 婚活に

混まんうち 正月頭に 行たちくう (盆兵児)

混まんうち 孫どん連れて 来れよかて

米やあるか 野菜はあるか 銭やあるか (子に孫に)

ご用心 転ばぬ先に 杖が折れ

ご用心 よかこつばかり 続き過ぎ

細うなつた 親爺の脛を 撫でてみる (スネかじり)

懲り懲りぞ けして戦争 しちやならん

懲り懲りぞ 儲かる仕事 ねずみ講

こりやいかん 赤提灯の ちらついて

こりや煙か 五右衛門風呂が 焚きつかん

こりやどうし 造りもんにや 見えんばい

こりやまこて マゴノテよりも 孫の手 (肉感)

こりや見事 組んで直ぐさま 背負い投げ

こりや安か 買うてはみたが 銭打捨て

こりや旨か どしこ出して 売り切るる

これ以上 便利になつて 良かもねろ

これが現実 命があれば どうにでも

これが現実 天変地異に 泣き寝入り

これから先 自給自足ば 考ゆう

これから先 月にも土地ば 買うところ

これつきり 最後の滴 漉めおる 熊日12/2掲載

これつきり 年金日まで 保たせにゃん

これつきり ポケットにある 小銭だけ

これは変 知らせないのが 国策か

これは変 テロや破壊が 聖戦か

これより佳境 桜の下の 花の宴

これより佳境 やがて朝ドラ エンディング

五郎丸 拜む大日如来さま

ごろ寝して 莫塵の寝心地 確かむる

今頃あ こん連んとん 釣れんとん

魂胆が 猫撫で声で 擦り寄らす

魂胆も あればあつたで ご馳走けた

こんでんと とんと採れんと 途絶えた

来んとなろ 直寝もしよう とうと朝

さあ仕事 子作りのゴテ 楽じゃ無か

さあ仕事 眠かばつてん 起きらにゃん

さあスタート　ぎゅっと靴紐　締め直す
さあスタート　フルマラソンに　挑いどました
さあ出番　軽く一杯　ひっかけて
さあ出番　十八番の　黒田節
さあ寝よう　早寝早起き　エコライフ
菜園の　自給自足は　ベジタブル
財産の　取り合い介護は　譲り合い
再稼働　安全性は　保証なし
再稼働　しゃっちがせんちゃ　良かろうで
最後の手　女の武器で　おとせます
財布と相談　受給日までは　持たせにゃん
財布と相談　高か買物　もうされん
災厄さいやくが　断ち切るるなら　ソバを食う（年越しソバ）
さえん顔　まあた彼女に　ふられとる
さえん顔　負けたつばしか　パチンコに
酒蔵の　幾樽どまあ　飲うだりろ
酒蔵の　試飲したときや　美味かった
捜さがし物　戻ったばって　見つからん（忘却は忘れ去ることなり）
盃さかづじゃ　面倒臭か　コップ遣れ
先がない　そがん急いで　どけ行くか
先走り　吐いたことばは　飲み込めず
先延ばし　直ぐ与えると　癖になる
先延ばし　少しは待たせた　ほうがええ
先を越し　俺おはの十八番こば　唄うたいよる
桜咲く　咲き始めより　散り際ぞ

桜散り　身辺整理　急かさるる
桜花　一気に春を　引き連れて
酒が良か　二日酔いして　酒は不要よか
酒肴さけさかな　ちつとだ分けて　くつどなあ（人の牛蒡ごぼうで法事する）
酒肴　てげてげあれば　よかるもん
下げたとば　産みたかばって　授さずからん
酒の後　失敗談も　数知れず
酒の菜　鰻あじの刺身が　いっち良か
酒も飲み　煙草も吸うて　長ご生きた
酒止めた　五臓六腑が　悲鳴挙げ
酒やめて　なんか娑婆が　狭うなる
差し当たり　食ていくしこは　貯ためちやおる
差し当たり　雀すずめに稲の　味見させ（共存共栄）
差し当たり　半分手付け　打つとこう
差し当たり　むなつけせんば　待ち長んか
匙投げて　俺の腕では　手に追えん
匙投げて　とうと修理屋　頼ました
匙投げて　レタスはそうよ　鋤くわ込ます
さしゆぶりに　今夜だ来んや　飲うでみゆい
さしゆぶりに　会うて抱き合う　同級生（ing）
さしよりは　あつた肴で　飲みよろか
流石さすがばい　説得力が　ものを言う
流石さすがばい　天眼通て　言われよる
流石さすがばい　努力の甲斐が　金賞に
流石さすがばい　何を訊きいても　知つとらす

させてみる どうせ長ごうは 続け得ん
さぞ良かる 九号サイズで ドンピシヤリ
さぞ良かる 子どま巢立ち 水入らず
さぞ良かる 子に立ち替わり 介護され
さぞ良かる 三億円が 当たったら
さぞ良かる 二人ばりして ハワイげな
沙汰が無か 達者か証拠 気を揉むな
沙汰は無か どがんどがんだ しとつちやい
座長さん 聞き上手の 話し下手
札入れが 診察券で 膨れよる
サツカーが テロも戦も 忘れさせ
ざつくばらん ため口叩きは程々に
ざつくばらん ニックネームで ロンとヤス
ざつくばらん 敬意忘れちゃ おらんかい
さつさせろ 何ばもたもた しとつとか
差つ遣つて 少な過ぎて 引つ込むる
雑草も 可愛か花は 抜くみやあだ
さておいて 他人の落ち度の 粗探し
さておいて 他人には他人の 好みあり
里に融け 天草弁と ごちちや混ぜ
里に融け 肩書きとれて 飲み交わす
里に融け よよして出来る 恩返し
早苗植え 神に報告 早苗饗に
捌けとる 親の知らない ことばかり
捌けとる そこは彼女が リードする

さびれとる 温泉街の 客途絶え
さびれとる シヤッター街の 閑古鳥
さびれとる テーマパークも 客疎ら ネット句会1月
五月雨に 牡丹崩るる ああ無念
寒うななか 重ねて着んば 風邪ひくぞ (万病の元)
寒うなつた やっぱああたの ソバがええ 久木野優秀賞
猿股は 裏返し着て いっちよこだ
騒がしか 授業はとんと 聞いとらん
三回忌 精進揚げさす 未亡人(もういいかも)
寒かばい 懐の財布 噫する
サングラス 心の奥も 曇つとる
サングラス 心の底は 覗かれん
三次会 眠りかぶつて つきおうた
散歩する 四五歩歩いて 引き返す
三本足 耐震補強で よぼんよぼ (ステッキ、あら素敵)
CMが 丁度良かそこ 邪魔しよる
G難度 日の丸揚げた がたあつた
爺婆に ちゃん付けで呼ぶ 同級生(愛称:相性)
爺婆の ヤブ医者揃い 大番外
シーン 天草灘に 日が沈む
シーン 噂の人の お出ましに
シーン 警策の音 ハツとする
シーン 質問に立つ 御長老
シーン 燃える太陽 飲み込んだ ネット句会9月
シーン ものも言わんで 蟹しやぶる

自衛権 どがん解釈 さっしーろ

塩足らん いくら何でも 減らしすぎ

潮時ぞ どうやら運も 尽き果てた

シオマネキ 此処来此処来と メス招く (求愛ダンス)

しおらしか 誰に似たのか 孫娘

しおらしか ついほろり来る 舞妓はん

仕方無か 拳式待てんで 出来ちゃった

仕方無か 自然の猛威 為すが俣

四月馬鹿 ウソに付き合う 相手なし

しがみつ き 吊り橋の上で 立ち往生

しがみつ き 連れて逃げてよ 年増の私

しがみつ き 何が何でも 管理職

叱り付け 説教半ばで 身に覚え

しくじって すんなりいかん こつばかり

しくじって またしくじって 挑戦し

地獄耳 聞く耳持たん 筈じゃって (耳無し法市)

地獄耳 補聴器なんの 要るもんか (悪口はよく聞こえる)

しこじーて 吾がじゃ上手で 思うとる

しこ倒れ 優勝逃す ユニフォーム

しこ倒れ 体格でにや 負けん筈

仕込まれた 主従の恩は どこえやら

支持層に 届かぬ杭の 彼方此方に

試食品 遠慮しいしい ご馳走けて

試食品 食い比べして 腹一杯

静けさが 空気読んでか 眠ってか

静けさが 酒が尽きたか 飲み潰れ

時代遅れ 切腹ものぞ 土下座せろ

時代遅れ 亭主関白 頑固爺

時代遅れ 包丁要らん 料理せにや

時代遅れ 孫にパソコン 習いよる

したり顔 お使いできた 三歳児

したり顔 箸で大豆が 掴めたよ

躰られ 我が子におなじ 躰する

知つとって オレと言うのに 電話切る

知つとるくせ 受付嬢に 聞きよらす (contact)

湿布貼り どこそこ痛み 耐えとつと

して見せて 言うて聞かせて させてみる

して見せて 教えてさせて 誉めてやれ

しとやかな 寝顔にも似ず 妻の蹴り

死には得ず 生きていかんば しょんなか

忍び足 伊賀か甲賀の 朝帰り (忍者かも)

持病あり もう最後かも 同窓会 (最後の晩餐)

痺れとる 抜くに抜けない 腕枕

至福の時 乳房啜えた 子の寝顔

死亡率 百パーセント 気にするな

仕舞い込み たーだ虫干し するばかり

始末して 欲しか物も 買いも得ん

自慢する 上手の手から 水が漏る (大洞)

自慢のたね 島の陶石 白ダイヤ

自慢のたね 包丁だけで 食ていかす

自慢のたね まあだ医者には 用は無か

自慢話 聞いた振りして 竹輪耳

自慢話 せんでおられん 質らしか

自慢話 誰も真から 聞いとらん

自慢話 また始まった 上空

終やなつた 退職金も 虎の子も (the end)

湿し替え 履くのはイヤと 逃げ回り

占めたもん 黙ってキスば 受けらした

占めたもん 釣れた魚にや 餌やらん

霜降りの 半ズボン着る 霜の朝 (昭和男児)

錫杖に かん入る 遍路道 (巡礼)

謝罪せる 何遍すれば 気が済むか

喋繰って だりも料理は そつちのけ

喋繰り過ぎ 口のチャックは 閉めておけ

喋繰んな 口が動けば 手が休む

シヤワレット 押した積りが 非常ベル

しゃんとせろ 居眠りしとる 見張り番

シヤンプーは ちいっとでよか エコロ爺 (ecology)

終活は 準備万端 いざさらば

終活も 医者も坊主も 友任せ

柔軟剤 掛けてくりゆうか 頑固爺

受験生 二浪までなら 良しとする

酒豪客 狼狽え隠す 大吟醸

主人です 言いたくないので 置き去りに

出荷前 夜業したつちや しこなさん

じゅつくわり 頓着なし ボール蹴る

じゅつくわり わざとチャプチャプ入りよる

出身は 高卒ですと 細か声

春秋の 暑さ寒さも 彼岸ぎり

準備して 生前葬ば すつちやいろ

準備万端 こつでぐつすり 眠らるる

準備万端 実力発揮 後は運

準備万端 飲み掛かっても 良かですよ

正月だあ 孫どん連れて 遊びぎや来え

正月殿 飲み食いしちや寝 また太る

小休止 コーヒーの香に ホットする

常識は 国が違えば 非常識

笑止千万 路上キッスの 未亡人 (醜議員)

笑止千万 審判にケチ 綱が泣く

正直つか 体重計は 嘘言わん

精進揚げ よかろうもんと 旅の宿 (旅は道連れ世夜は情け)

冗談冗談 言うしこ言うて ウケ狙い

冗談冗談 本音も少し 入れておく

焼酎は ロックお湯割り どっちする

商売は そつちのけして 油売る (完売)

消費税 願いましたは ご破算に

丈夫んか 力仕事にや 打って付け

精霊に 初穂供える 早期米

女性たち 亭主のアラを さらけ出し

女性たち 二人で居ても 姦かしましい

始中終 愛妻からの ラブコール

始中終 ご馳走食おけても 良かるかい

始中終 飲のうでばかりで 依存症

シヨツピング あつちこつちと カカーナビ (お抱え運転手)

仕様しよん無か 言い出しつpeg 罰被る

仕様しよん無か 好かん国でも 物安か

仕様しよんなか 父親譲り 頑固者

仕様しよん無か 天の猛威もういにや 泣き寝入り

仕様しよん無か 抜いた白髪が 惜しまれて

仕様しよん無か まあた彼氏は 見つかるさい (振られたの♪)

白髪染め 無駄な抵抗 止よしなつせ

白髪抜き 禿はげとどつちが 良かりいろ

知らん癖 勿もつ体たいぶつて 似え非せ笑わう

知らん振り 音さえ出んば バレンとに

知らん振り 知ったか振りを 嘲笑あざわらう

知らん振り ニンニク喰めうて 口拭ぬぐう (不許くんしゆ葷酒入山門)

知らん間に 夜の蝶々に 羽化しとる

尻しりい敷かれ 座布団よりも ペしゃんこに

尻しりい敷かれ そつでも夫婦 円満に

じりじりと カウントダウン 吾が余命

じりじりと 焦らす女の 焦れつたさ

シルバーの 席せき譲る娘こに 胸むねに来て

しれえつと 聞きこえんふりを 決め込ます

しれえつと 馬鹿ばかつくつて いっちよかす

じわじわと 美人びじんの側そばに 躡にじり寄り

じわじわと 屋敷内やしきうちまで 迫る竹

人生の 操縦そうじゆうミスミスの 墜落たいらく機き

新しん畳 大の字おほじに寝ねて 嗅かぐ臭におい

死しんだつもりで 生なきとるうちに 飲のうどころ

新茶の香 先まず神仏へ 上げ申まをそう

陣取ちんつて 我がもの顔で 島支配

新聞しんぶんな 太か字おほじだけ 拾ひろい読みよみ(ルーペなし)

新聞しんぶんの お悔くやみ欄らんに 最後さいご載のる(最初さいしょで最後)

親友しんゆうの 退院たいえんせんと 酒さけいけん(いける口)

据すえ膳ぜんに 箸しゆも付つけんで きやあ眠り

末すえつ子こにや きつか仕事しごとも おうらゆる

末すえつ子の 孫まご見るまでは 生なきてたい

据すえとけば 子こ子の湧わく 干ほしなつせ(乾杯)

清すが々ずし あの朝顔あさがおが しばみおり

すがすがしい エツチ難度たんどの 捻ひねりり技

姿見すがたみが びつくりするごと 若わかづくり

姿見すがたみに 一ひと歩ふ下がれば 入りきる

スガネよい ちった休やすめと 茶菓子遣やる

好かんばつてん 他ほかに肴さかなも 無なかごたる ネット句会くわい4月

素寒貧すかんびん 何軒なんけんハシゴ したもねろ

好き勝手すきかた 金かねの力ちからに 物言ものごとわせ

好き勝手 ハイそれまでよ 好きにして
好き勝手 反省しとる 半世紀
好き勝手 若気の至り 見捨てられ
好きじゃある 我がじゃ上手で 思とらす
好き好きで 蚊も痩せとれば おろせせる
過ぎたかも 焼酎瓶に ヒビの入り
好きばって 磯のアワビと おなしこつ
隙間風 後塞きせんば スースする
鋤焼きに 卵入れたが 俺好きや
少しずつ 食費削って 募金さす
少しずつ 抜いた白髪も 惜しくなり
すこし早め 戒名だけは 貰うとる
すこし早め かるわせてみる ランドセル
勧められ 注された酒は 差し交わせ (差しつ差されつ)
進んどの 嫌な仕事は ロボットに ネット句会6月
進んどの ホテルは予約 してたわよ
スタート 結果は後に ついてくる
スタート 瞬発力が ものを言う
スタート 整備点検 怠るな
スタート 始め良ければ 終わり良し
スタート 走り出したら 考ゆう
スタートが スタップ究明 匙投げた
捨つとに 金ん要るなら 置いとこだ (活かせば資源)
ストレスが スイセンの香で 癒さるる
ストレスの 溜まる間は無か 狂句馬鹿

スネかじり おらんと思えば こんだ孫 (この子ったら)
素晴らしか 錦織圭の ストローク
素晴らしか さすが横綱 心技体
すびくねエ 明日も霜か 早よ来春 (春よ来い)
すびくねエ 歯痛堪えて 飲んでます
すびくねエ 骨身に染みる 隙間風
すびくねエ 湯たんぽ抱いて 膝抱いて
凶太さが あがんならんば 出世せん
凶太さが 処構わず 高いびき
滑くつて 膝んかつぷ 擦り剥いた
ズボン丈 いち切る方が 長ごなかか (丈詰め)
スマートホン 指に唾付け 捲りよる (癖)
スマホなぞ 持たんシンプル イズベスト
スマホには 要らん機能の 多過ぎる
住めば都 不自由せんて 暮らさるる
座るにも 立つにもよいしよ 手で支え (四足歩行)
ずん垂れて まちったズボンな 引き上げろ (腰パン)
済んません 頭下ぐれば 済む話
済んません ちと冗談の きつ過ぎた
請求書 転居先まで 追うてきた
正座して 痺の切れて 立ちきらん
税と 息引つきって 老い迫る
贅沢つか 大金持ちでばしあるか
贅沢つか 買物控え 辛抱する (贅沢税)
贅沢つか 刺身にせんと 喰わん猫

生命は 潮の満ち引き 神業かみわざか

せかせかと 働き尽くめ 後がない

せからしか 俺に叶えば 掛かつてけ

せからしか 来んなら来んで 徒然無とぜんなか 潮騒 31

せからしか 歯ぎしりする歯 すぐ替かえろ

赤飯の 移りに返す マツチ箱

赤飯の 移りにや何ば 返そうろ

セキュリテイー 盗らるるもんな ありもせん

セキュリテイー 油断ならん 妻の口

世間てい体 次第に腹が 目立ち出す (未婚の母)

世間並み 贅ぜい言えば きんのなか

世間並み 鳴かず飛ばずの 半世紀

世間並み ほめられもせず 憎まれず

世間の目 スキャンダラスな ことが好き

せしきやあで 立ち話どま しちやおれん

せしきやあで 一人暮らしは やるせなか

せしこうて 飯の支度が やおいかん

世知辛せちがらさ 生き馬の目にも ゴーグルを

世知辛せちがらさ 山里にや無なか 辛からさかも

世知辛せちがらさ 油断も隙すきも ならん娑婆しゃば ネット句会1月

急勝せつかちで 早物わきもん買かうて 損あばかり

咳せきつ込こんで 言い訳いわけすつで じきばるる

咳せきつ込こんで 満更まんさらウソじゃ なかごたる

節電の ポスター照らす 投光器

節分会 鬼は裸じゃ 風邪引くぞ

節分の 豆はツマミに もってこい

節約を 大々的に 呼び掛くる

銭や要いらん 別れてくれる だけでよか

銭や持たん 給料日まで ツケとって

銭や持たん 寒ひとしおさが一入 五体染ごちやしみる

セミの声 いやが上にも 暑あつくなる

競せり合あうて 三番までなら 良かこてしゅ

競せり合あうて 常けいこの稽古が 物言うた

忙せわしなか 朝茶も飲のまず 果行はってかす

忙せわしなか 足手纏あしぢになる子猫

忙せわしなか 飯は噛み噛み 仕事場へ

世話要らん ああだが先に 逝いきなつせ

世話要らん 医者も坊主も 友が居る

世話焼あて 娘が時にや 来て呉るる

世話やなつた 親の恩より 義理の恩 (恩返し)

僭せんえつ越えつが 乾杯待たせ まだ喋しゃべる (早よせー)

僭せんえつ越えつなる 長か挨拶あ 止めつくれ (下手の長談義)

全壊で 瓦礫がらの中を 這はうて出た

全壊で 怪我けがしただけで 助たすかった

せんが増し 気済みのせんば 為直しなおさす

洗車せんすりや 黄砂混じりの 雨の降る

銭せんじゃなか 言う奴やつア皆 分限ぶんげん者しやどん (金が物言う)

先達せんだつの 遍路指南に 絆はだされて

銭せんほどき 食たうていくしこ かつつかつ (貧困)

専門家 操作ミスでは 無なかるもん

川柳が すぐ閃かす オジンギヤグ
川柳の たあだ字数 合わすだけ
センリヨウも マンリヨウもある 荒ら屋に
総入れ歯 チュウしゅうにも 不塩梅
総入れ歯 漬けもん噛む音 恨めしか
総入れ歯 笑いすぎたりや うっぱずれ
そうじやろう 盆正月で 昇級し
総スカン 地震雷 家事育児
そうにや良か 舶来品ちゆ 自慢さす
ソーラーに 電力会社の 暗雲が
不景気で 両手を挙げた 招き猫
総理っちゃ アイムソーリじや 済まされん
そうりやウン 美人薄命 私や九十(♪命短し恋せよオトメ)
そうりや見ろ 親のしたごつ 子のしよる (遺伝)
そうりや見ろ 天に唾すりや 降り掛かる
そうりや良か 社長のキープ 飲みよらす
そそめいて 内緒話は 嫌な感じ
育ち盛り 食うしこ食うて 肥えもせん
育ち盛り 三人前を たいらげる
育ち盛り 履かれん靴ば 捨ても得ず
育ち盛り ぶかぶかの服 着せとらす
育ったね かるうて 抱いて 手を引いて (三兄弟)
ぞっとして 夢の吊り橋 後退り
ぞっとする アオダイシヨウが 絡み合い
ぞっとする 一便後が 墜落し

ぞっとする スカイツリーの ガラス床
ぞっとする 腸掴み そ引きだし
ぞっとする 避難してから 火砕流
卒業式 我が師の恩は 忘れない
袖の下 地獄の沙汰に 効くどうか (金次第)
その他いろいろ 選り取り見取り 食べまくり
その他いろいろ チョイスするのは 好き勝手
その時は とぼけて急場 凌ぎよる
その筈が 結婚指輪 メツキ剥げ
その筈が 新婚旅行 日帰りに
その筈が ダイヤモンドは 不相応
その筈が ニューヨーク行きが 入浴に
その早さ 一つ言うなら 十返す
そのまんま そがんあんたが 俺や好きぞ
側にきて 声も掛けずに 果行かす
側にきて 選挙前だけ 握手さす
側にきて そつと手渡す 請求書
素振り無か 何時だ結婚 すっちゃいろ
空と海 境界線の 青と藍
空模様 まだ爆竹は 鳴らんどか
そりが何 下馬評ちゅうは 当てならん
そりが何 自問自答で 切り抜ける
そりやいかん 折り入ってなる 来んちゃよか
そりやすごか あの狭き門 通らした
そりやそうた できの悪かた お前似た

そりやでけん 親は看らんで 遺産分け

そりやでけん 市会議員が 滞納者

それはよかった 採用通知 貰たげな

それはよかった 手術せんでも よかてなあ

それはよかった 立派なもんば 下げとった

揃たるば 填つて飲うで 貰おうか

そわそわ もうは着替えて お披露目に ネット句会5月

そんなバカな 日本人を 標的に

そんなバカな 預金封鎖を する噂

そんな話 他人にやすんなて 言うたるが

退役し 納屋の留守番する案山子

ダイエット 七福神に 勧めらす
大吉が 保証付きなる 良かばって (当たるも八卦)

大吟醸 米寿に学ぶ 喜寿と古稀

たいしたもん ずっと無遅刻 無欠席

体脂肪 痩せる下着で みんな腫れ

大丈夫 堪忍袋 緒が丈夫

大丈夫 七福神な みなメタボ

退職し 今も身分は 妻の部下

退職し 貰ったものは 病気だけ

大切 虎の子までも 叩かせて ネット句会10月

大切 惨めな戦後 知らんどが

大の字が 川の字になり 今一字

大の字の 妻の隣に 一文字

台風が 土木業者を 潤わせ

台風に また百姓が 泣かされる

台風の 来いどんすれば 困ったもん (進路予想)

大役は 俺の肩には 重過ぎた

太陽光 タダで発電 銭儲 (投資)

ダイレクトメール どこで住所の 知れたつか

ダイレクトメール 封も切らんで ゴミ箱へ

耐え切らん 減量せんと 治りやせん

耐え切らん 堪えてばかり おらるるか

耐えとった 冷や飯食いちや 夢のある

高ざるき こがん遠まで はち来とる

高過ぎる 時季物食うて いっちよこう

高望み 選びに選んで 行き損ね

宝くじ のさらん人で 支えとる

炊き立ての おかず要らない 米ん飯

宅配の リンゴの箱で 米送る (故郷便)

巧技 そつの無かごて 使い切り

巧技 継ぎ目はどこに あっちやいろ

巧技 難なく修理 やつてのけ

巧技 ほんに良か手ば もつとらす

筍が 猪からの お裾分け

筍の 一斉に出て お裾分け
高こちいた 慣れんことした ばつかりに

出し惜しみ 漉ためたっちゃ ちよろつと出 (頻尿症)

出すものは 舌出すとでも イヤちゆわす

叩かれて 布団にや罪は 無かろうで

疊替え 隣や何ば さすもねろ

駄々をこね 考えさせて 根くらへ

駄々をこね 今度だけで 味占める

脱オンナ 男子トイレに 駆け込ます

達者かね 何処もどがなんも 無かちゆわす

達者かね まだ口だけは 負けとらん (口は早生まれ)

達者かね まだ晩酌に 二・三合

達者かばい 二次会場に はべり出て

達者して 飲まるるはざが よかつばな (百葉の長)

縦にや首 振らん家内と 扇風機 (家殿)

種無しのスイカの種は あつたね (コルヒチン)

種の無か ブドウの種は 何処も無か (ジベレリン)

種蒔いて よか塩梅に 夕立が

楽しかぬ 同級生つて どがんよか

頼み事 妻の鼻歌 今が良か (ご機嫌さん)

頼もしさ 家業継がせて よか如る ネット句会12月

頼もしさ 任かせてもよか 仕事ぶり

煙草にしゅう 日の長うして 腰延ばし

煙草飲み 肩身の狭か 納税者

旅先で 家にある物ナ 買いなすな (ツママツ)

旅好きよ あの世だけには 逝くみやあぞ (ミステリーツアー)

旅前夜 あれもこれもと 詰め捲り

旅に出る しこうすつとに 草臥れた

魂消った 起きたりや外は 銀世界

魂消った お産してもう歩きよる

魂消った 術後間も無う 巡礼に

魂消った 曾婆さんに なったげな

魂消った 便座の蓋の わがで開く

魂消った 惚けちやおらん 銭勘定

魂消たぞ あん年でつちや こん色気 (冥土サロン)

魂消たぞ 楽譜は脳の 中にある (辻井 伸行)

魂消たぞ ムカゼじゃなかか 着け睫毛

騙された 有り金全部 振り込うだ

騙された 骨董品を 捨ても得ず

騙された てつきり釣った 鯛ともた (買うとつと)

騙された 独身じゃかと 子持ちてた

溜まつとる 見掛けはぴしゃり 紛いもん

溜まつとる 銭なるよかて 体脂肪 (BMI)

黙つとれ 打ちばしせんば 口や勝たん (力ずく)

黙つとれ 講師の音が 聞き取れん

たまに来る 嫁じよはまるで お客人

黙りこくつて 頓着せんで いっちよこだ

黙りこくつて 余程のこつじや 腹搔かん

為えならん くつ喋りが 加勢さす

為えならん 為いも得んくせ 引き受けて (無益無害)

ためになる そうだったのか 初耳ぞ

ためになる 知識経験 技術力

ダメよダメ 飲酒運転 事故の元 (酒の用心)

ダメよダメ 戦争だけは しちやならん

だらしなか 女御に金ば 出さすんな

だらしなか ちつと気張って へコタルル
だらしなか 脱いだ着物な 片付けろ
だらしなか 股は広げて うつ座り

足らん足らん 余り過ぎより そつが無か
足らん足らん 手は借つても 銭や借るな
足るを知る うつすらとでん あればよか
足るを知る 起きて半畳 寝て一畳

(吾唯知足)

弛止に 猪口二三杯 あれば良か
たわい無か 頭下げれば 済むもんば
たわい無か 伊達には場数 踏んどらん

断捨離は 思い出の品 邪魔しよる
断捨離は 体脂肪なら 捨ててよか
断捨離は 勿体のうて お断り

誕生日 有り難くない 歳貰う
誕生日 パツピーばかりでもながか
誕生日 蝋燭の数 多過ぎる

単身赴任 新幹線で 通い妻
段々と 美味い爛酒 寒の夜
段々と 炬燵がみかん 消費増し

段々と 近くの国と 近くなり
段々と 迫る水嵩 身が竦み
段々と 年の瀬迫り 障子貼る

段々と 寄る年波に 身を委ね
だんだんな ハシゴの相手 して貰て
だんだんな 世話役さんの お陰ばな

知恵付けて 遣った積もりが 見透かされ
近まつて 医者も僧侶も 仏顔
近まつて 般若心経 習いよる (信仰心)

近うなつた あの世も寺も 小便も (不眠山頻尿寺)
近う寄れ 耳が聞こえん 目が霞む
遅刻して 戻る時間にや まっ先に (時は金なり)
縮こまり 亀が雁首 引つ込むる

縮こまり 猫と一緒に 炬燵番
父の日の 大吟醸の その旨さ
ちつとでん 思し召しより 米ん飯
ちとほの字 ママの陽気に 俺陰気

千鳥足 後ん一杯が 多過ぎた
千鳥足 裏戸を開けて 忍び足
血の付いた 包帯解いて 見ろちゆわす
茶髪てや 何が流行か 黒がよか (黒髪)

ちやん仕舞た 足で開くつと 見とらした
ちやん仕舞た 至らんことして 罰被り
ちやん仕舞た 俺の持ち歌 唄われた
ちやん仕舞た 車代まで きゃあ飲うだ
ちやん仕舞た 食後の薬 きゃー忘れ
ちやん仕舞た 丁度んところ 子が見とる
ちやん仕舞た 唾付けとけばよかつたて (先取りされた)
ちやん仕舞た 特等席は 予約済み
ちやん仕舞た バスが定時に 果行た

ちゃん仕舞た 太か魚ば いっちゃった
ちゃんちやらおかしい 俺の地盤で 立候補
ちゃんちやらおかしい 十年早い お弟子取り
ちゃん付けで 何時まで呼ぶか 六十ぞ
忠孝の 尾を振る犬は 叩かれん (忠犬ハチ公)
中の下で 種も仕掛けも なか暮らし
ちゅうりこり 堅かもんな 剥けもさん
ちゅうりこり 辺野古埋め立て 捗らん
注意して 杖で探つて 足でさで
注意して バックしますと 言う車
釣果あり 一杯飲もうて せしかわす
銚子空 ほろ酔い気色 良か調子
丁度良か 遮光カーテン ニガゴウリ
丁度良か ちった怪我も 良か試練
丁度良か 遮光カーテン ニガゴウリ
丁度良か ダイエットした 甲斐のあり
丁度良か ちった怪我も 良か試練
丁度良か 似合うた鍋に 似合うた蓋
丁度んとき 子どもに見られ バツ悪い
丁度んとき 電話にや出んで いっちゃよう
弔問の 多さ故人の 仁徳ぞ
チョコレート バレンタインが 太らする
ちよつと待て 朝ドラ見んと 手に着かん
ちよつと待て 酒も肴も 残つとる
ちよつと待て 手が外されん 仕込み中

ちよつと待て ナデシコジャパン よかところ
ちんちろみや おせちに掃除 餅飾り (迎春)
ちんちろみや 打って走つて 掻き回す
費えーか 使い切らんば 減らさるる (土木予算)
通勤は 運転手付き 定期バス
杖代わり 降らんちや傘は 必需品 (雨に歩けば…)
使い捨て 主従関係 其れ迄よ
月明かり トラクターが まだ気張る
月の出ば 待つちゆてあんひと 待つとつと
つくづくと 妻の手見れば 胸痛む
つくづくと 寝顔覗けば 生き仏
作り過ぎ 二日も同じ 菜ばかり
ツケのきく ママの酌じゃ 断れん
釣った魚 餌やりついに 飼い慣らし
突つ立って 足でオンする 扇風機
包み銭 持たん同志で つんなもだ
勤め上げ 時計に暦 用無しに
勤め上げ 終日のたり のたりばな
角隠し ウチの女房に 被せたか (爪を隠す)
椿落つ 母の臨終 やも知れん
椿落つ 不吉な予感 なまんだぶ
つばくらめ ゆう忘れでにや 里帰り
つべこべ言うて しようなかとが 腹いっぺ
つべこべ言うて 面倒だから 頼まれん
妻降りて お疲れ様と ナビが言う

妻の後 三步下がって ついて行く (師の陰を踏まず)

妻の居て 生き存える 有り難さ

妻の勘 好みの爛で つい過ぎる

妻はバラ 花は散ったが トゲはある (綺麗か花)

ツマミには 節分の豆 再利用 (Reuse)

艶やかに 髪も心も あなた色

梅雨明けは 灼熱地獄 どれ逃ぎゆか

梅雨は嫌 粘つとつとは 露知らず

梅雨は嫌 飲むこと以外 仕事なし

強い人 猫は何でも 知っている

吊り橋は 嬬が渡った 後渡る (露払い)

連れ合いが 長年経てば 連れ無いに

連れ込むな 私や急には 泊まられん (車は急に止まれない)

連れ添えば ありこりそりで 通じつと (阿吽の呼吸)

悪阻かも どうやらできた そうにある

ツンデレの おろみぞもあり みぞもあり

つんのうで お寺詣りに きやあ行こだ

つんのうで そうよで二次会 果行だ

つんぶるえ 学生服は 泥だらけ

つん燃やた コピー焼いてと 言うたのに

亭主留守 良かちようらいで 昼寝さす

程度もん 薬も過ぎれば 毒になる (過剰投薬)

程度の無か 諭吉さんたちや 急ぎ足 (お足)

出来したぞ 良かっぱ下げて 産まれとる (初子)

出来損ね 親の躰が なつとらん

出来不出来 同じ腹から 産んだとに

出来不出来 よか塩梅に 匙加減

手際良か えらい仕事の 捌けらす

手際良か ちよこつと修理 してやらす

手際良か 缺一ちよで 食ていける

手際よさ 若つかときから し慣れとる

てげてげて 奢らず媚びず 控え目に

てげてげて 今日を終えれば そつでよし

てげてげて 妥協せんば もねならん

てげてげて よかことにする 歳になり

てげてげて 欲せず施し 人ん為 (喜捨・寄進)

手ごわいぞう 小兵力士と 侮るな

手ごわいぞう 百戦錬磨の 業師げな

手為醤油 手前味噌じゃか こだわりで

手為醤油 余所の味にや 引け取らん (家伝)

出しゃばつて 赤恥搔いて 引き合わん

手だてなか 阿蘇の噴火で 灰が降る

鉄人も 皿洗いから 始めとる

てっぺん 下界は何を しよるやら ネット句会5月

てっぺん 強かはずたい 風当たり

手詰まりで 自国防衛 支援国

手詰まりで 歴史認識 繰り返し

手内職 遊びほどきで 捗らん

手にや負えん イスラム国の テロてるん (何じやかんじや)
手の掛かる もう限界ぞ 孫の守り
デパ地下で 夕食代わり 試食する
手八丁 何ばさせても 手際よか
手袋の 左手ばかり 残つとる (裏返せ)
手袋の 右手ばかり 売つてくれ
手弁当 向こう糞では 割合わん
デラックス 金の草鞋の 披露宴 ネット句会6月
寺普請 寄付て聞いたら 寄付かん (喜捨せろ)
寺詣り 年寄りばかり つんなもだ
デリケート 乙女の心にもラップ
デリケート そこは優しく 治療して
出る杭は打たれ 出過ぎりや打ち切らん
てれつとして よか女御ばし 居らるかい
テレビ取材 厚かましさも 程がある (お構い下だされ)
テレビにも 声援贈り 拍手して
手を合わせ 捨てる物にも 感謝して
伝供取り 手から手渡し 瓦揚げ
デング熱 感染すれば 大事ぞ (蚊一んかんちーた)
電池切れ 体内備蓄 使い切り (エネルギー補給)
田地持ち 有ればあるもん 草の種
天の恵み 都会じゃ飲めん 水のある
電話帳 昔の名前で 三年忌
電話ばい 丁度ん時い 出じいっ置け (取込中)
ドア越しに お帰りなさい 午前様

ドア越しに 亭主が留守と お断り
退いてみる 俺がすつとば ゆう見とけ
どい痩せん 口ほど動けば じき痩する (運動不足)
動悸打つ 恋の鼓動と ちと違う
同期会 会いたかったぞ 久し振り
同期会 今亡き恩師 忍びつつ
同期会 今なる言いきる 好きじゃった
同期会 俺もワリも 無礼講
同期会 恩師はそうよ 旅立たれ
同期会 喋り足らんし 飲み足らん
同期会 体調不良で 来んとちゆた
同期会 鷹ばし産んだか 孫自慢
同期会 亭主のこたあ きやあ忘れ
同期会 何てや喜寿まで 待てんてや
同期生 声聞くだけで わかったぞ
同期生 だあが一番 早よもろた
父さんの 経営杜撰 倒産か
湯治旅 よかたやっぱり 家ん風呂
どうしたもんか 動き出したら 考ゆう ネット句会2月
どうしたもんか 先ずは行動 後は運
どうしてん 俺が仕掛けにや 喰い付かん
どうしゆうに 過ぎたこたあ あきらめろ
どうしゆうに 水飲んだっちゃ 太る質
どうしゆうろ 貯金なかつとしゆ おろすだけ
どうするか 歳に免じて 堪えてよ

同窓会 天草弁の 懐かっさあ

同窓会 喋ってばかり 箸や休み

同窓会 成績順が 替わつとる

同窓会 遠かところから おいでたなあ

同窓会 何着て行こうか 迷うたと

同窓会 昔話に 花が咲き

遠うなつた 耳も色気も ふる里も (遠くにありて思うもの)

当面は 家内企業で 細々と

当面は 揃うた者で いっちゅうか

とおり道 イヤな沖南風 まっぼうし

とおり道 カモの親子が 渡りきり 熊日4/27

どうろころ 食うていくしこ あればよか

どうろころ 飲みもえんば 貯めもえん

どうろころ 飲むしこあれば そつでよか

どきどきすつ 美人看護師 脈をとる

時は金 チンして済ます 夕ご飯

どぎゃんかな 何時だ飲む如て なつどかい

特上と さらり言う妻 太っ腹

ドクダミが 狭い畑を 占領し

独壇場 マイク握って 離さつさん

毒舌も 君麻呂だけん 許さるる

どけ行こが 子供が居らんば 安気なもん

どこでつちや 佐伊津弁な じきわかる

どどここば 銭な巡つて おつとじやい (天下の回り物)

どこなつと 出掛けてみるか よか日和

心太 細い天草 心太

どさくさで わーが領土に きやーしなし

歳訊かれ その場その場で 満・数え

歳じゃある 腰やいっちえて 踊りよる (いっちよけ)

歳だけん そんな口紅は 赤過ぎる

歳だけん 何が何でも 派手じゃろう

歳も歳 医者と仲良し なるばかり

歳も歳 これから先は 遠慮しゆう

歳やとらん 色気と食い気と 遊び気と (元氣澀刺)

図書館に 行き先告げて パチンコ屋 (想定内)

歳寄つた 言いたかことも 明日にしゆう (喉元過ぎれば)

年寄りを 笑うちやならん 行く道じゃ

ど素人 三味を片手に クシヤミする (遊興三味)

ドス利かせ サングラス掛け 鏡見る

徒然なか 無縁仏に 花手向け

とつけむにや 爺が太刀打ち でくるかい (冷水)

とつけむにや サンプルとにや えりや違い

とつけむにや 歳の差婚も 親子ほど

とつけむにや まあだ十年 早過ぎる

どっこいしょ 立つも座るも 手について

どつちじやい 貰つくれた 来てやつた (してやつた)

ドットコム 何処が混むとか 聞いてみる

とつとつと ととこれ座ろ ドジ同士

とつとつと 孫の土産に きやあくりゆう

とても無理 清濁飲める 器には
 とどこれけ 昔なじみが かたまつて
 となり村 案山子が過疎化 カバーする
 となり村 案山子も村の 賑わいに
 飛び出すな 車は急にや 止まらない
 とびついて 安す物買いの 銭打捨て
 飛び飛びに 興味ある記事 拾い読み
 飛び飛びに 密生苗は 間引きさす
 途方も無か 出世したもん 親に似ず
 どぼくれた 鉛筆削る 肥後の守
 とぼけても駄目 証拠はちゃんと 掴んどる
 とぼけても駄目 顔にウソだと 書いてある
 泊まらんか 積もる話しで 夜も更けた
 泊まらんか 待つとる者も 居らんどが
 朋来たる 酒も肴も 揃えとる (論語)
 共白髪 誓うた妻が 白髪染め
 共白髪 なんだイヤばいと 妻茶髪 (嫌よイヤイヤ)
 どら猫の 凶々しさも 程がある
 寅年に 虎の子までも 少子化か
 取り敢えず ナマを一杯 チュウを呉れ (中：焼酎)
 どりが良か あなたの色に 染めてみて
 取り逃ぎやた 掴うだタコは 足ばっかり
 どりもこりも 塗ったくりよる 試供品
 取るに足らん 内輪喧嘩は 犬も食わん
 取るに足らん 内部抗争 お勝手に

穫れ過ぎて 銭がたなかもね 糞重か (価格暴落)
 泥だらけ 車はたあだ 乗るばかり
 どんと来い 何でもござれ 資格持ち
 どんと来い 町の歴史は 俺に聞け
 どん腹は しゃつしゃつとって 高ざるき
 どんぴしゃり こうとか柄の 有りいろろ
 どんぴしゃり 似合うた鍋に 似合うた蓋
 なあおまえ 先に逝たとく ぼちぼちけ (♪先に逝ってはいけない)
 なある程 相手が一枚 上だった
 なある程 言われてみれば そがんじやる
 なある程 言われん訳が 判ったぞ (疾しかこつが)
 なある程 言わんはずたい 照れ臭しや
 なある程 男に解らん こともある
 なある程 親に言われん 訳がある
 なある程 親の言うごつ せにやいかん
 なある程 俺の仕掛けじゃ 釣れんはず NHK2/23放映
 なある程 柿と柿は 似て非なり
 なある程 口裏合わせ したつたな
 なある程 事は解決 したるふう
 なある程 こりや袖下 貫るとるな
 なある程 筋書通り じゃったばい (とんとん拍子)
 なある程 銭がたあつた 長ごもてた
 なある程 どうも様子が 変だった (想定内)
 なある程 並んだ甲斐が あつたばい (行列のできる店)
 なある程 似合うた鍋も 蓋もある

なある程 寄つ付かん筈 寄付貰い
なある程 落語のオチは 唸らせる
なあんでか 惚けると惚れる 字は同じ (惚けとらん)
内緒たい 嬢に知れば 大喧嘩
長生きし 曾孫の面が 見ゆう如たる
長生きに 溜息漏らす 罰被り (遺産分け)
長い夜に 一緒に欠伸 老夫婦
鳴かず飛ばず 爪は隠した ままじゃった
鳴き止まん 耳の中には 蟬がおる
無くならん 娑婆の諍い 扱き下ろし
無くならん ちやんと蓄え ひとつたつ
無くならん 埋蔵金な うんとある
長ご生きる 積もりで買った 高級車 (遺産相続)
長ごうなか 生きとるささは 楽しもだ
長ご長ごう 苦虫嚙うで 齒の抜けた
長ご短こ 中々無かな 揃たつは
長ご保てた 高つかがたあつた ランドセル
長ご保てん 無塩な小切つて じき喰わにや
情けなか 男やもめにや 蛆がわく
情けなか 針のみんなぞが 見えんとぞ (針穴)
情けなか ヤマト横綱 居らんとか
無し無しの 銭ば盗人に 押っ盗られ
茄子の花 千に一つの 無駄もなか
菜種梅雨 なわしたチヨッキ 出して着る
夏が来りや やっぱり冬が よかち言う

懐かっさ 小学唱歌の 大合唱
成ったごつ 栄枯盛衰 世の習い
納豆喰う 身体に良いと 納得し
成つとらん スマホ見い見い 聞く訓辞
夏遍路 うがい薬の 麦般若
夏休み 子どんが声の とんとせん
夏休み 孫が曾孫を 引き連れて
何様か 柏手じゃるか 合掌か
何様か 何さま伸すの 横着つか
何食わぬ顔 ニンニク食うて よう喋る
何食わぬ顔 眼の縁や紅う なつとらす
生臭気 酒の肴に ひと小切り
南無大師 同行二人で 遍路する
成る程ね 説得力の ある話
慣れたもん イビキ齒ぎしり 気にならん
慣れとらす 話し上手で 聞き上手
成れば成る 辛抱する気に 金がる (金の成る木)
難儀して 子は大学に 遊ばせて
何気なし 額縁裏に 手を伸ばし
何気なし 風邪引いとつて 風呂入る
何気なし 襖開けたりや 着替え中
何気なし 額縁裏に 手を伸ばし
何気なし 風邪引いとつて 風呂入る
何事や 行って集って 見たむなか
何しゆうに 子に残そうて せんちやよか

何しゆうに 黄泉よみで使えん 銭貯ためて (地獄の沙汰さたも金次第)

何てさな 聞こえん振りで 地獄耳

何てやあ 俺おれがすつとに ケチ付くる (文句有りません)

何となく 嫌きらな予感が しょつたと

何となく 胡散臭うさんくさい 儲もちけ口

何となく 大学までは 出たけれど

何となく 頼りなさそう あの素振そぶり

何となく テロの標的 ジャパニーズ ネット句会2月

何となく B型そうな マイペース

何となく 不安が過よぎる 胸騒むねさわぎ

何となく 結ばれそうな 赤い糸

何々なんなんな 買かい物すつと メモしとく

何も彼も 親おやなればこそ 出来でる世話

何も彼も 為しい得んこつあ 神頼かみたのりみ

何も無なか 今日けふどま早はやう 寝ねてみゆうか

賑にぎやかさ 柏手かしわて響ひびく 初詣はつもうで

賑にぎやかさ 勝かつた勝かつたで 舞まい上がり

逃げまくり 頭かぶ半分 刈きり残のこし (バリカン)

逃げまくり 痛いたか豆粒 鬼おには外

逃げまくり 犯人逮捕 それまでよ

逃げられん ここは男が 引き受けた

逃げられん 蒔まいた種たねは 刈きり取とらじや

二代目も 経営不振 父ちちさん似に (倒産たうさんに)

日没にっぽくに 八十八はちじゅうはちの 遍路終へんろおえ

日曜日 まあだ寝足たらん そうなもん

二の膳付にのぜんつきき 後の魂胆 見え隠れ

二の膳付にのぜんつきき 一度で良よかが お招まげられに

二の膳にのぜんつき おもてなしなら 遠慮えんりょ無く

にぶい人 乙女心を 察さしてよ 熊日くまひ3/7

にぶか人 抓つかつたのに ああ痛いたか (声出さすな)

日本人 標的ひょうてきにする テロリスト

入所後は 老いらくの恋が 花盛はなもり (禁じられた遊び)

似れば似る 親おやに似ん子の おるもんか

似れば似る 五百羅漢ごひゃくらかんに 俺おれの顔

人気者 面つらが物言ものごとう 無理むりが利きく

ニンニクは 口くちにや美味うまいかばつ 臭くさういね

ぬいぐるみ どっちが抱かかつこしているの

ぬいぐるみ ふんわり感かんに 癒なされる

抜ぬかりは無なか 領土交渉 見合みあひ紐ひも

抜ぬかりは無なか 吾われが貰もらい分ぶん 握にぎつとる

脱だぎ捨すてて 朝あの寒ふさは 嘘うそん如ごとて

温ぬくうして ひつちいでどま 寝ねられんぞ

温ぬくめて喰くう 昨夜よるべんカレーの 残のこりもん

温ぬくもつて 冷さめた湯ゆたんぼ 邪魔じゃまになる

抜け替かわり 出番待いつとる 永久えいきう歯

塗ぬったくり 試供品しきうひんな 片かたっ端

暖ぬるみだし 神経痛しんけいとうも 大人おとなしか

暖ぬるみだし 梅花めいがこぼるる 迎むかえ梅雨

願わくは 感謝の心と 佛心と

願わくば 患^{わづら}いでにや ピンころり (安楽死)

寝苦しか 嬬^{ねぞう}の寝相は 見苦しか

猫かぶり 騙^{だま}され方も 知^しっちゃおる

寝ころんで 梅雨の明けんと 気の塞^{ふさ}ぐ

寝ころんで 猫も退屈 しとるふう

猫だまし 張^かり手搦^かち上げ 横綱か

猫ん如^{ごと}て 勝手気儘^{きまま}に 過^ごしたか

猫ん如^{ごと}て 自由気儘^{きまま}に 居場所替^かえ

寝静まり これ^こで仕事の 扱^{はか}が行く 熊日3/18

寝静まり 振^はり子の音に 目^めが冴^さえる

寝静まり 夜回^{よまわ}りの声 恙^{つが}なく

寝たつきり 悠々^{ゆうゆう}自適^{じてき}か 高いびき (まだ壮健^{そうけん})

熱帯夜 節電^{せいでん}よりか 吾^{われ}が身体

熱帯夜 寝^ねゴザが何処^{どこ}か あった筈

熱帯夜 腹^{はら}の中から 冷^{ひや}やしよる

ネット野次 見^みて見^みん振^はりが できんとか

寝^ねとつても 妻^{つま}は領土^{りやうど}を 占領^{せんりやう}し

ねぶうなつた お休^{やすみ}みなさい 安^{やす}らかに (安眠枕^{あんみんまくら})

眠^ねられん 医^い者^{しや}に行くまで 昼寝^{ひるね}する ネット句会8月

眠^ねりこけ 夜半^{よわ}の雷^{かみ} 知^しらじやつた

眠^ねれない 余^{あま}りに羊^{ひつ} 多過^{たか}ぎる 第6回ねむり川柳

眠^ねれない とうとイビキに 逃^{にげ}出^であた

寝^ねる間^まも惜^{おし}しみ 生活^{せいかつ}の足^{あし}し 手内職

寝^ねる間^まも惜^{おし}しみ 大学受験^{だいがくけんしゆ} パスさした

音^ねを上げて きつか仕事^{しごと}に 耐^たえきらん

音^ねを上げて もう加勢^{かせい}には 来^きんだらう

年賀状^{ねがはじやう} 達者^{たつしよ}うしとれば そつでよか

年賀状^{ねがはじやう} 年^{とし}ごとに減^へる 同期生^{どうきせい}

年賀状^{ねがはじやう} 孫甥^{おひめい}姪^{めい}が 増^まえたもん

年金様々^{ねんきんさまざま} 肩^{かた}叩^{たた}く孫^{まご} 有^あり難^{がた}や (金の世の中)

年金^{ねんきん}な 吾^{われ}がおる使^{つか}うて 子^こに孫^{まご}に (子煩悩)

ねんぞくな 稼^{かせ}ぎも得^えんで 高級車^{こうきゆうくるま}

ねんぞくな 下^{くだ}だり向^むきは まだ早^{はや}か

ねんぞくな 師匠^{しせう}の恩^{おん}な きやあ忘れ

年度末^{ねんどま} 何^ど処^{どこ}も彼^か処^{どこ}も 掘^ほり返^{かへ}し

年度末^{ねんどま} 犬^{いぬ}もさるけば 工事中^{こうじちゆう}

農機具^{のうきぐ}の ローン払^{はら}いに 出稼^{だせ}ぎに

農作業^{のうぎやう} 一^{ひと}人でせんちや 加勢^{かせい}すつて

飲^のうで食^くて 酔^ようて唄^{うた}うて 素寒貧^{すかんびん}

飲^のうでみゆう 体^{てい}に良^よかと テレシヨップ

脳^{のう}天気^{てんき} 軽^{かろ}口^{くち}叩^{たた}く 会議場^{かいぎじやう}

無^なうなつた 欲^ほも得^えも 心配^{しんぱい}も (無欲無心)

無^なうならん いくら引^ひいても また生^{なま}ゆる

のうのうと 借^かりたお金^{かね}も 返^{かへ}えさんで

のうのうと 食^くちや寝食^{ねじき}ちや寝^ねの 気儘^{きまま}猫

のうのうと シルバー席^{じやく}に ガングロが

のうのうと 人^{ひと}の手柄^{てがま}は 吾^{われ}が物^{もの}に

のうのうと また尻拭^{しりふ}い させおつて

熊日5/9掲載

ノータリン 同じ間違い またさした
ノータリン 本を貸す馬鹿 返す馬鹿 (お貸し下され)
退き給え 下んだり向きは まだ早か
退き給え 世代交代 妨ぐる
退き給え そこはシルバー 指定席
のけぞって 誰も相手に して呉れん
残さんで 喰て仕舞わんば ねまるばい
残つとる いつときや古米 喰わんばん (保有米)
残つとる 飲み上げたろう 戻ろうだ
残りもん 勿体のうして 瘦せられん (食べ物大切に)
のさつとる 女ばかりか 苦勞にも
のさつとる 富豪でイケメン ババア抜き
のさつとる 主人と子にも 姑にも
のさつとる 晩酌だけは 欠かし無し
のさんぞう おろいかとこは よう似とる
のさんぞう 仕込み上げたら 辞めていく
のさんばい 避難先まで 焼き出され
のすこつか 避難所暮らし 三年も
のすこつか 遺産は呉れる 親は看ん
のすこつか 消費税の また上がる (駆け込み需要)
ノックする こがんに間に 誰っじやろか
延ばし延ばし とうと手遅れ だったげな 熊日6/4掲載
延ばし延ばし もう催促も 嫌になる
伸び盛り 鴨居にお辞儀 せにやならん
伸び盛り つんつるてんの 服着とる

伸び盛り 縫い上げ解いた 形のある
伸び放題 髪の毛も髭も 生え被り
のほほんど 何時の間にもやら 日の暮れて
のほほんど 娑婆はそがんにや 甘うなか
飲み会と 言えば閃く 酒の菜
飲み会の 酒は飲んでも 飲まるんな (飲んだ酒に飲まれる)
飲み代は 昔や酒代 今薬代
飲み足らん 酒はまだかて 喚きよる
飲みなつせ 昔や徳利 今薬
飲みやえんと ひっくり返やて 返さした (下戸)
飲み屋発 飲酒運転 地獄行き (終点 地獄です)
飲み忘れ 残った薬 ゴミ箱に
乗り遅れ 極楽行きは 満員ぞ
乗り気満々 気立ての良さに 惚れられた ネット句会3月
乗り気満々 見合い作戦 ツーショット
乗りたがる ハイブリッドと よか女御 (試乗)
乗り易か 人の煽てと 口車 (有頂天)
暖簾のゆ 二つに分けて ひとつ風呂
飲んじゃ寝 喰うちや寝して また太る (ぐーたら)
飲んだろか 塵籠見たりや 飲うどった
婆あになり 嫁が姑に 成り上がり (出世)
パーフェクト 世界の不思議 探し当て
倍返し エビを贈って 鯛貰う
倍返し 小言無視して 大事に
バイキング マナーは皿から こぼれよる (食い意地)

バイキング 勿体ないを 盛り込んで
バイキング 旨まかりそうで 取り過ぎる
廃校の 跡地に残る 金次郎（勤勉の手本）

ハイそれまで 三人居ても 猿知恵か

ハイそれまで どうも勝ち目は なか如たる 熊日3/16掲載

ハイハイ 犬が這い方 教えよる

ハイハイ えらい気安う 引き受けた

ハイハイ どうせ私が しまえじやる

ハイハイ 二度と浮気は しまっせん

ハイハイ 孫よ早よ立て 早よ歩け

ハイボール 好きな貴方が ダイスキー

ハイヤ節 踊ってハイヨ 元ハイヤ

入りきらん 器に合うたしこ貰え

入りきらん タダなら欲が 加勢さす

入りきらん 立ち見席でちゃ 仕方なか

入りきらん 服に合わせて ダイエット

這えば立て 立てば金喰い 虫となり

歯痒かね 日本横綱 居らんとか（国技かん？）

馬鹿たれが 来世もあたと 添うていう

馬鹿たれが 我が子思わん 親おらん（過保護）

抄らん 朝の段取り 拙かった

抄らん 遊びほどのきの 手内職

抄らん 材料不足 手間不足

抄らん 夜鍋せんなら 間に合わん

抄らん 領土問題 戦後処理

馬鹿にして 先に生まれりや 先生か

歯が抜けて 「愛すてる」とは 本心か

ばかばかしか ガソリン価格 税三つ

ばかばかしか 農機具代の 出稼ぎに

馬鹿んごて 愛しとるてや 気味悪か（不言実行）

馬鹿んごて 飲んで知らんて あるもんか

馬鹿んごて 曲がったこたあ しちゃおらん

薄情か そがん子産った 覚や無か

薄情か よかときばかり 諂うて

舶来も 安い時計も 五時は五時

半夏団子で 荒神さまに お持て成し

禿げてきた 惜しいこたした 白髪抜き

励まそう 坊さん将に 修行中

励みよる 子育てよりも 子づくりに

歯痒らしか 鹿が徒して 仕方無か（天草鹿）

歯痒らしか どりややってみろ 俺がする

化けらした 若づくりしても この程度

箱根路を タスキ繫いで 走りぐら（箱根駅伝）

ばさらつか 側でにや仕事 できんばい

ハシゴ癖 昔や飲み屋 今病院

ハシゴ酒 三軒までは 覚えとる

バス時間 遅れてくれて だんだんな

バス旅行 降りるたんびに 土産買う

走りぐら 何時も後から 二三番

走りぐら まだ孫たちにや 負けとらん

恥ずかしか しがん土産じや 遣られんぞ
挟うでくれ 旅行に合わせ 初頭
パソコンで 綺麗に打って 誤字だらけ
パソコンな ちゅうりこうり 為いならん
パソコンを 筆字教えた 子に習う (老いては子に習い)
肌寒か 伊達の薄着で 風邪ひいた
パチンコで 損した時や 黙っとる
はつきりせえ 常々言うて 聞かせとる
ハックション 口より先に 股押さえ
ハックション パンツの紐を ぼつ千切り
八卦良い 残った年も 来る年も (世界平和)
初参加 若輩たちに 丁寧語
抜歯して 耐で消毒 口濯ぐ
初スイカ 何人からも 叩かれて
歯つっこう とうと吾が歯は 無うなった
果行た 台風一過 日本晴れ
抜擢も お偉いさんの 匙加減
初孫の エコー写真に どつちかな
初詣で 今年や宮ば 替えてみゆ (御利益)
初詣で 二千円がと 拝ん申す
初詣で 孫の分まで 頼ん申し
バツ悪か まさかの所で 出会せて
派手かろか 取っ替えひっ替え 胸に当て (品定め)
ばてぐるい 我慢しきらん 如てなった
ばてぐるい 俎板の鯉 逃げられん

花咲翁 死んで花実が 咲くもんか
花盛り どうか二三日 降りなすな
放し飼いの ちった手綱の 緩め過ぎ
ハナシどん 噛までにや飲うで ぐつちやべり (話：歯無し)
涙垂れて テカった袖で また拭う
バナナかな バナナばな んまかばな
花を撮る 十七・八に 目をつけて
歯の疼く なんなら酒で うがいせろ
歯の抜けて 流動食が よかごたる
母親の 遺影に今日も 声掛けて
母強し 命を掛けて 産み育て
母の味 妻が嫁御が 受け継いで
母の顔 何時もにっこり 穏やかに
母の字の 二つの点は おっぱいぞ
はひふへほ 二乗で笑え わっはっは (はは ほほ)
浜ん河原 アサリ漁って 自給食
刃向かえん やっぱ原発 稼働さす
歯向こうで どうせ勝たんた わかつとる
早アもん 抱いた子がもう抱いてきた 熊日12/3掲載
早アもん 曾爺さんに きやあなつて
早仕舞い 遅い開店 効率化
早過ぎた もちった生きて 欲しかった
早よせろ 遅い助けは 助からん
早よせんか そんならそうと 早よ言えよ
早よ寝てみゆ テレビ見るより よか夢見ゆ

腹癒せに あらん方さん 道教え
腹一杯 アイスクリーム 別腹に
腹一杯 痩せる薬も 効き目無か
腹下し 梅エキス舐め 利いたふう
腹ごなし 一汗かかにかや 飯やいけん
腹探り 出方次第で 引つ込むる
腹損ね 得知れんもんば 食うでたあ
腹八分 解つちやいるが 手が伸びる
腹減った ある物なみんな たいらげた
腹減った 金が無い時や 武士の振り
腹減った 新陳代謝 フル稼働
腹減った 育ち盛りの 胃は二つ
腹減った 並うで待つちや 居りきらん
腹ん塞く 鯖の刺身に 当たらした
バリユウムも まあまあの味 飲み慣れて
春一番 吹きつらかして ゴミだらけ
払うても 払うても来る 請求書 (頭↑山火)
春うらら 桜も夜鍋せにやならん
春うらら 日向見つけて 猫昼寝
春たけなわ 花鳥風月 愛で一句
春たけなわ 心うきうき 気はそぞろ
春たけなわ 白黒の娑婆 カラフルに
春の夜の 儚き夢の 腕枕
春は朝 夏は夕暮れ 秋は夜
春よ来い 鼻歌も出る 早春賦

晴れ姿 見せたかったろ 亡き母に
晴れ間には 鉢花たちも 日向ボコ
掃いても 溜まれば溜まる 銀杏の葉
蛮カラー 高下駄履いて 破れ帽子 (昭和天高生)
万歳か 降参なのか はつきりせえ (手向き)
晩酌に やっぱお爛ば つけまつしゅ
晩酌は 息子と同じ量飲ます
絆創膏 貼った貼ったの 相撲取り
半世紀 回顧記録は 反省記 (人生五十年)
半端じゃか 飲うだ酒瓶 五万本
冷え込いで 炬燵が足を 引つ込うだ
冷え込いで 出るのも億劫 炬燵番
冷えこくり どこもかしこも ひっ縮み
日が沈む シヤッターチャンス きゃー逃し
彼岸会にや だいぶ身感も 良うなつて
彼岸過や 何処も彼処も 草だらけ
引き受けて 何の役にも 立つとらん
弾きもせん ピアノは遂に 引き取られ
卑怯者 胸糞悪か 腹ごなし
引けば引く いっちゃったとは 太かった (phishing)
被災地に 真っ先に来い 春日差し
膝カップ 揉み解したりや おろ痛か
ひだるしゃ 唐芋喰うて 鱈ん菜 (食糧難)
ひだる腹 冷や飯ばって 美味かった
ヒチ諄か 何年謝罪 せろてかい

七五三 おんぶに抱っこ 手を引いて
七五三 産てば産つたり 二つぶせ
七分咲き 誰か桜を 折ったとは
引っ掛けた 噛みもせえでん ひん飲うで
ピッカピカ 一年生に なったとね
ピッカピカ 散髪代は 負からんか
ピッカピカ 赤色灯は パトじやかか
ピッカピカ 電灯無用 エコロ爺
ピッカピカ フラッシュ炊けば 乱反射
ピッカピカ 床も廊下も 磨き上げ
ひっ切り無し 帰省車両が 数珠繋ぎ
ひっ切り無し 苦情電話の 鳴り止まん
ひっ切り無し ジャンボジェットの 離着陸
ひっ切り無し ちった俺にも 喋らせる
ひっ切り無し 杖突いてどま さるかれん
引っ込いで 年寄りの出る 幕じやなか
引っ込んで ここは私の 出番です
引っ込んで 根掛かりさせた そうにある
ひっちいて 若つか者なら 兎も角も
秘伝てな 並うだっちゃ 喰てみたか
人一倍 稼ぎもすれば 飲みもする
人一倍 苦勞が実り 花開く
人一倍 する事あするが 言いもする
人一倍 練習量を こなさした
ひと口が 旨そうばって また太る

ひと口が もうひと口が 欲しくなり
ひと口の 積もりが遂に もう一本
他人事ば 何さすとじゃい 世話なこつ
人だけが どうし忙しか 猫は暇
一つでん 覚えたことは 荷にならん
他人の世話 一銭がつも ならんとに
人の世は 塞翁が馬 常無らん
一肌脱いで 次代へ残す 技教え
一肌脱いで 伝承芸を 伝授さす
一肌脱いで まあたカッブル 取り持たす
独り立ち おんぶに抱っこ それまでよ
独り寝て 逢えぬあなたの 夢を見る
独り寝の 夜長を耐えて 夢うつつ
独り飯 手つ取り早か 冷や奴
日向ぼこ 雲よお日様 隠さんで
日向ぼこ 先に猫から 場所取られ
日向ぼこ 日照権を 勝ち取らす
日向ぼこ 日焼け止め塗り サングラス
日向ぼこ ビルの谷間で 場所探し
避難先 住所不定の キャンプカー
避難して キャンプ経験 役立った
ひねくれて せろと言われりや いやになり
火の側と 女御の側は 離れ得ん
火の伽と 仏壇の花 切らすまい
日の長んか 孫が来んなら 徒然なか (徒然なるままに)

日の悪か 卯みそ寅酒 辰油

批判続出 資源開発 軍事基地

批判続出 面倒見たよ 飴と鞭

暇じゃある 他人が何しゆぞ 勝手じゃろ

暇潰し パチンコなつと 弾こうか

閑になりや 忙しかつが やっぱよか

ヒマワリの 最後介錯 仕る

日捲りが また剥ぎ取られ 師走風邪

百円で 善行気分 募金箱

百均で 何でも揃う なかたなか

百歳が 居て赤ちゃん居ない里

百姓は お天道さまに 機嫌とり

百姓は 人のさすごて すれば良か

百八の 煩惱払う 除夜の鐘 (心の迷い)

百薬の長さすがは 医者いらす

冷や酒と 親の意見は 後で効く (じわり)

冷やソーメン 冷えたビールに 冷や奴

冷や水で 言われんごてしゆ 隠居の身

ヒヤリした ガードレールが 近こう寄る

ヒヤリした センターライン はみ出とる

ヒヤリする 一歩違えば 谷底ぞ

病院じゃ 半額セール 無かもねろ

病院を あちこち替えち きゃあ死んだ

剽げとる 火男踊り 撮つところ

表彰す 煮付け綺麗に 食たで賞

雷降らせ 雷様が あざ笑ひ

病名に 加齢ちゆうとが あっちやるか (彼は加齢)

ひよくーつと こがん時間に 誰だろか ネット句会6月

ひよくーつと ハンドル持った まま逝った

ひよくーつと 元カノからの イーメール

火男が 五右衛門風呂の 釜を炊く

火男が 剽げ面して 腰使う

ひよつとして これは畏じゃ なかるうか

ひよつとして のさるかもよと 歯を磨く (ときめく)

ひよつとして 貫うた歳暮 回し物

平がよか 上り詰めたりや 世話も世話

蛭が吸う 吸うしこ吸えば 落ちつどう

昼ごはん たった一人じゃ 食う気せん

昼ごはん ラーメン食うて いちちよこう

広いなあ 非常出口は どこだろか

広いなあ 丸い地球の 見える灘

広いなあ 燃える太陽 丸呑みに

ひん脱いで おしめイヤがり 逃げ回る

ひん脱いで 人の気配に 狼狽える

ひん脱いで 先ずは一風呂 浴びてから

ひん脱いで 割れた腹筋 見てみさい

ひんぱんに フェイスブックに シェアする

ひんぱんに 夜中目が覚め 昼寝する

不安だらけ どうにかなるさ ケセラセラ

不安だらけ 安心の道 探さにゃん

Vサイン 山太郎ガネは 美味かガネ

ブーイング アイアムケンジ 屈っせんぞ (ISIS・健二)

風神に ピーエムとやら 吹き遣って

夫婦喧嘩 いつの間にやら 仲直り

夫婦喧嘩 また始まった もう済んだ

風鈴に 風が唄わせ 踊らする

無塩ばな 何さま一切 食うてみる

不甲斐なか 子は大学に 遊ばせて

不器用 釘打つ積もり 指を打つ

不器用 雑巾縫いが 関の山

不器用 手作りの味 もう慣れた

不器用 手ば汚さんで 済まざる

不器用 無かよりまし 手為づくり

不器用 ミシンあるのに 仕舞い込み

露の臺 もう出て良かか 覗きよる

不気味でならん またあちこちで 大地震

不気味でならん ミサイル発射 挑発か

福島にや 戻ろう如って 戻られん

福袋 気に入ったつは 何も無か

ふくよかな 七福神な みなメタボ

不景気で 両手を挙げた 招き猫

不経済 封書の通知 利子五円
分限者 有る処にや 人集る(金の臭い)

不公平 散髪代は 安うせろ(ハゲ料金)

不思議だねえ あればあるもの 雨のねた

不思議だねえ 雷さんは 金が好き

不自由なし みぞがり殺し 愚うたらに

夫唱婦随 我が家は妻が 唱えます

二人限り ある物食うて うちよこう

二人限り 巢立って空いた 子ども部屋

二人限り 掃除する部屋 多過ぎる

二人限り 追い炊きせーじ エコロジー

不調法さ 幾らあつても 足らん皿

不調法さ つい冷食で 済ませよる

不調法さ 手を汚すのが 億劫で

不調法さ また夕飯は 店屋物

不調法さ 俎板要らん 冷食で

二日酔い しない薬が あればとて

二日酔い ちったハシゴの 過ぎたばい

二日酔い まちった寝せて うちよこう

物故者が 初手ん話に 出てこらす

ぶっ続け 休肝日など ありうかい

ぶっ飛ばせ 特急便で あの世行き

太つとる 瘦せたかばって 飯や美味か

ふゆうじの 節句働き 物笑い

武勇伝 術後の傷を 見せ合うて

冬になりや 夏のほうが よかったぞ
ぶら下がり 服に合わせて ダイエット

ふらついて 赤提灯の 招きよる
ふらついて つつ転げんごつ ご用心
Bravo 拍手喝采 鳴り止まん
振り返り 昔はもてた こともある
振り返りや 悲喜交々の 半世紀
降り被り 干した布団が 気が気じゃか
振り切つて 昔は親が 今は子が
振り切つて 嫁つたばつて きゃあ戻り
振り向くな 後ろ姿に 惚れくうだ (見違えた)
古か話 家内にや言うて 呉れなすな
古か話 波瀾万丈 回顧録
古か話 よう覚えとる 惚けじゃなか
故郷を 遠く離れて 六十年
古女房 クーリングオフ 期限切れ
無礼講 お前が言うか 無礼者
無礼講 マジに受けたら すぐ左遷
降れば降る 日んが毎日 テレビ番 (梅雨)
降れば降る バケツひっくり返やたごて
降れば降る 降らせ過ぎばな 八代亜紀
風呂上がり 息もつかんで ぎゅぎゅうつと
風呂上がり 服は着らんで 逃げ回り (裸の王様)
プロ選手 スポーツマンの 裏表
プロポーズ 決め手はやっぱ マイホーム
不和のもと 貸すな借りるな 義理欠くな
不和のもと 無くせ争い 貧と病

平気です 貯えだけは ちゃんどある
平気です 叩かれ強う なつちやおる
平気です 他人に無かもん 持つてます
日暮で あつた物食て いっちよこう
へごちやご言うて 頭下げみち 知らっさん
へゴの露 足取らるつと 露知らず
ベジダブル 虫が食わんごて 薬掛け
へそくりの 隠し場所まで きゃー忘れ (もう無いかも)
下手糞ちや 数撃ちや当たる 鉄砲撃ち
へちちやらで 岩山走る ダウンヒル
へちちやらで 世渡り実は 綱渡り
へのかっぱ 打たれて凹む やわじゃなか
へのかっぱ 河童は合羽 要らんどう
へのかっぱ どん底暮らし 絶えてきた 熊日4/15掲載
屁の河童 他人の噂は 知っちゃおる
屁の河童 三つで泳ぎ 覚えたつ
部屋から部屋 スマホで「ごはんできたわよ」
部屋から部屋 苦手力士の 胸を借り
部屋から部屋 ノックご無用 ふすま越し
部屋から部屋 ふすま開いて 大広間
ヘルパーが 来るころだけん 片付けにや
ヘルパーに 抱かれ爺ちゃんコチコチに
返事の軽さ 断れんしこ はずみよる
返事の軽さ 仕事貰えりや 良しとする
返事の軽さ 息子嫁にが 頼み良か

変なくせ 外で飲んでも また家で ネット句会5月

変なくせ 混ぜて飲んでも 何のその

便利さに 不便なお釣り ついてくる

便利さも 面倒くさい パスワード

遍路さん 暑か時どま 麦般若

防衛に 金は出すから 守ってね

方角違い 頭使わん方に行く

方角違い 庶民に味方せん政治

方言は 使わんならば 消えていく

坊さんの 引くに引けない 後ろ髪

方図も無や そがん狡して よかもんか

暴走車 やかましゅうして のすこつか

ポーナス すでに出口は 決まっとる

ホーホケキョ 練習中は ちゃつちやつちや

ホームラン 最終回に 逆転し

ほうりやみろ 言わんこつじやか 咳しよる

惚け出やーた 二人でやつと 一人前

惚け出やーて 総身に知恵の 回り兼ね

惚けとらん 初手んこたあ 覚えとる (三つ子の魂百まで)

惚けとらん 徘徊しても 家路まで

ポケモンで 俺は退けもん 妙なもん

惚け予防 よぼよぼしてちゃ 散歩さす

ボコボコに 畦道ほがし 土竜打ち

埃かぶって 阿弥陀如来が お気の毒 熊日7/15掲載

埃かぶって 毛バタキやどこか なおしこみ

ボスじゃある 指揮をとりとり 士気あぐる

補正して 体に合わす 巧技 (Fashionreform)

ポツカポカ 陽気で桜 開花させ

坊ちゃんて もうは言わんで くれんかい

布袋さん サンタさんかと 勘違い

火照る面 よか風呂ですな 顔なじみ

骨折って 棚田を守る 爺と婆

骨折って 残した美田 休耕地

誉め千切り 値切る魂胆 恵比寿市

法螺吹きが 頓珍漢な 口叩く (鐘が鳴る鳴るキンコンカン)

掘り返し 年度末まで 使い切る (予算消化)

本卦還り 老いては再び 稚児になり (還暦)

本渡瀬戸 潮ん引いたら 徒歩渡り (海が割れるのよ)

盆殿にや 先祖様への お持て成し

盆前に 初穂の米も 忍べ終え

本なこつ 冗談言うても 通じらん

まアだ幼い 当てにしている 七光り

まアだ幼い 体格だけは 早生太り

まあだだよ 迎えに来んちゃ 俺が行く (カクレンボ)

まあだ寝とる 戻ってみれば もう寝とる (レム睡眠)

まあだピーピー 家のローンが 残つとる

マイカーが 八十過ぎて 車椅子

マイカーは 俺の運転 妻所有

毎食後 持病の薬 欠かされん (印籠が目に入らぬか)

まいっとき 我慢しとけば 子が稼ぐ

マイペース 人の話の 腰折って

マイホーム 俺の居場所は ナイホーム

前向きに 俺を励ます 駐車場

前を向き 立ち直らんで どうするか ネット句会2月

前を向き へこたれとって どうしゆうに

前を向き 迷わず一步 踏み出やた

前を向き 脇目も振らず 駆け抜ける

真央だけは きゃあ転んでも 鼻屑目に

任せとけ 叩いた胸の 薄かこつ

紛らわし 同じ器に 入れとつと

枕呉れ 此処にや私の 膝のある

枕なら 此処にあるのに 腕枕

負けてくれ 髪の毛の数 少なかる

負けられん がっぷり四つで 綱狙う

孫が聞く バア婆の味が 母の味?

孫が寝て 大吟醸で 飲み直し

まこてばえ 稼ぎきつとき 稼がんば

孫の来て 勝手知つたる 捜し物

孫の為 爺が一肌 脱ごうわい

孫の名は 読みも得んば 書きも得ん

孫離れ バーベキューでちや 釣れもせず
マスクせにや またピイエムが 飛来する

マスクマン 挨拶あしたが 誰っじやいろ

先ず手本 大人が変わりや 子も変わる

混ぜくつて くじ引きしたりや 大当たり

混ぜくつて 人の気持ちも 知らないで

混ぜこくり 分けて資源に すれよかて

混ぜたくり 古米古々米 解るまい

混ぜたくり どりがどりじやい 判りやせん

混ぜたくり ババがどっかに 紛れとる

また会おで 生き長らえて 杖ちいて

まだ明つか 飲み掛かつとにや 気の毒つか

まだ明つか もう一仕事 我慢出そう

まだ言うか 往生際の 悪いもん (徘徊)

またおらん 出たきり老人 どこさるく

まだ懲りん 失敗せんば 止めきらん

また来んね 本気にしたりや また来たね

また地震 ぐらつとすれば 跳び起きる

またしても 五輪トラブル 無駄遣い

まだ遠か 足腰鍛えた 甲斐のあり

まだ遠か 油の切れはせんにいる

まだ遠か 生きとる内に 国交を

まだ遠か 三県架橋は 夢の夢

また一人 逝く人絶えず 春彼岸

まだ余震 避難バックは 手放せん

待たんかい 聞き捨て成らん そのことば

待ち合わせ 今見た時計 また見よる
待ち合わせ 早めに来ても もう来とる
待ち合わせ もうドキドキは のうなつた
間違いのもと 口約束の 担保無し
間違いのもと 四十後家とは 旅するな
間違いのもと 飲んだら乗るな 飲ますんな
間違うて 鏡の吾がに 話しかけ ネット句会3月
間違うて ぐいと焼酎 ひん飲うだ
待ちなつせ そがん急で どけ行くと
待ち長か 採用通知 まだ来んか
真つ先に 流行病を 取り込もうだ
真つ先に 眼で味見する さくらんぼ
真つ白か 雪より霜は 冷たかね
真つ直ぐに 生きて来たとに 腰や曲がり (品行方正)
待つてみる まあだ話しは 済んどらん
待つてみる ゆう考えて 返事する
待つて来ん 磯で独り寝 させらるる
まてまてまて 二次会場は 俺が持つ (同窓会)
纏まって 特産品で 町興し
纏まって 圃場整備で 近代化
マドンナを 俺の彼女て 宣言し
俎板の 出番無くなり チン料理
学舎は 記念碑だけで 姿あなか (廃校)
間に合はん 親の臨終 赴任先
間に合はん 片っ端から 平らげて

間に合はん 好きなああの娘は 嫁らした
間に合はん 作る人より 食べる人
間に合はん トイレの前に 人の列
真似しごろ 親のする事あ じき真似る
忠実からす 隅にや置けん 色男
忠実なもん お勤め前の 朝仕事
豆まき 鬼から親父 追い出され
眉唾ぞ 聞いた話と えりや違い
迷い無く 生きてきたのに 道迷い
まるで夢 摘出された 胆石に
まるで夢 昔は総て 手作業で
丸もうけ 持参金付き 美人妻
万歩計 手でも揺すつて 加勢さす
見いきらん 包帯取つて 見ろちゆわす
身内でん 金の貸し借り 不和の元
見栄を張り お家ガラガラ 火の車
見限つて 医者が坊主に 鞍替えし
ミカンの木 酸いも甘いも 生り分けて
身寒のよさ 野良仕事にも 扱がいく ネット句会11月
身寒のよさ 化粧直し せんでよか
見切り品 値切る積もりの 誉め千切り
見比べて よその嫁ごが 良う見ゆる
未経験 そこは彼女に リードされ
見頃なら やつぱ盛りの 一寸前
ミサイルが 主権国家の 自衛措置

見定めて あすこん男が 親切か
見知らん人 一献如何 無塩ばな
見知らん人 子が取り持った 保護者会
見知らん人 差しつ差されつ なめなっせ (刺身肴)
見透かされ 奥さんちゆわれて 慌てらす
見透かされ 繕おうてちや やおいかん
水回り 妻が設計 役回り
無惨気か 鳥インフルで 殺処分
無惨な気 孫には食い扶持 残しとこ
みぞかねえ 時間よ止まれ そのまんま
みぞかねえ とつて食いたい 孫娘
みぞかねえ 孫の笑顔に 頬ずりし
みぞかねえ 孫はなしてか おれ似とる (隔世遺伝)
みぞか孫 似ても似つかぬ 憎い嫁
みぞがられ 養い殺れて 木偶の坊
見たかねえ 東京五輪 決算書 ネット句会4月
見たむ無か 裸踊りは 芸じゃ無か
見たむ無か 裸ばりーで 出て去る来
乱れ生し おんぶにだっこ 手を引いて
乱れ生し 節約しても 追い付かん
乱れ生し 嫁ぎ先から 脛かじる
見違えた 馬がレディーに なつとらす
見違えた 馬子にも衣装 ちゆうもんな ネット句会7月
見違えた 鳶が鷹ン子 俺は鷹
道標 ナビより詳しい カカーナビ (navigation)

見ちやおれん ナイフはこがんにして使う
見ちやおれん 恥や外聞 憚らず
蜜かけ 脳の随まで キンときた
見つめ合い 連れ添うたとに 睨み合い (あっち向いてホイ)
見て学ぶ 親の背中が 子の手本
見てみさい 他人の手際は 盗み取れ
皆の衆 宗派を問わぬ 皆の宗 (天草巡礼)
皆平等 起きて半畳 寝て一畳 (あれば良か)
身の危険 慮って 差し止むる (旅券発行)
身の破滅 宝くじから 狂わした
見張りする 案山子とカラスの 知恵比べ
耳元に 蚊の一匹が 眠らせん
耳も目も セミが鳴いたり 蚊が飛うで (耳鳴り・飛蚊症)
見ゆるささ 良か日和りには 草筆り
夫婦ばり 旅行三昧 良かいちり
妙なもん 今注いだとに 漏つとる (そらぎゅっ)
妙なもん 陽の照つとつて 雨ん降る (狐の嫁入り)
魅力無か そがんじゃ無かと 縁が無か
見ろみろみる おなご同士で 抱き合うて (Lesbian)
見渡す限り 起きてびっくり 銀世界
見渡す限り 白一色に 雪化粧
見渡す限り 秀でた人も 居らんふう
見渡す限り またもPM 撒き散らし
見渡す限り 見事変身 銀世界
身を賭して 焼け野の雉 子を守る

みんな一緒 汚かよりか 綺麗好き
みんな一緒 死ぬときや一人 無一文
みんな一緒 損するよりも 儲けたい
みんな一緒 出すより入る 方が良い
みんな一緒 裸で生まれ はずれ死ぬ
むうらしか まだでん梅雨は 明けんどか
迎え火の LEDは 今風ぞ
むかつ腹 どがしこ飲うでも 酔いもせん
無我夢中 カニ食う時は 黙々と
無我夢中 子ども三人 育て上げ
無我夢中 子はうっちよいて 弾きよる (パチンコ)
麦収納 脱穀後の むつ痒か
向き向きに 合わせリメイクして呉るる
向き向きに 品数揃え やおいかん
虫食れが これぞ誠の 無農薬
虫食れが これぞ誠の 無農薬
虫食れは 誰も買わない 自家消費
虫食れに これが自慢の 無農薬
虫の声 月の夜に聞く ノクターン
虫干しで 昼うでなわす 思い出も
難しか 綱渡りより 世渡りが (渡る世間は鬼ばかり)
息子から 貰た小遣い 孫に遣る
むずむず 今か今かと 出番待つ
むずむず 俺の出番だ 腕が鳴る
むずむず とうと黙って おりきらん

むずむず 目汁鼻汁 花粉症
無税でた 一千万ば 孫ん為
無駄使い 水道工事は 舗装後
無駄な物 捨てると言うて 俺を捨て
無頓着 共同責任 無責任 (責任転嫁)
胸付けに 抓み食いせにや 待ち切らん
胸キューン ハンカチ王子 あの仕種
無農薬 安全だけん 虫が食う
無農薬 こだわるくせに 薬浸け (無能役)
村祭り 並ぶ出店に 人集り
無理言うな 美しく老いる 筈がなか (美人薄命)
無理し過ぎ 両方立てれば 身が立たん
無理でしよう 高嶺の花に プロポーズ
無理でしよう 努力もせんで 神頼み ネット句会10月
無理でしよう 二転三転 迷いよる
無理も無か あがんで食うなら 太るはず
無理も無か 親が親なら 子も子たい
無理も無か 勝てる相手じゃ なかつたつ 熊日2/28掲載
無理も無か 世間知らずの 籠の鳥
無理も無か 奴が一枚 上じやつた
酩酊して 有り金はたき 素寒貧
酩酊して 家に着くまで 覚え無か
冥土のみやげ 小切手帖も 持って行こ
冥土のみやげ 物より金が 良くなかか
迷惑な 洗濯物に ヘエの降る

迷惑なはなし 野菜畑が 灰被り
迷惑なはなし 収穫前に 猪め
夫婦茶碗 大で食うのは いつも妻
目が合うて 頷き合うて チェックイン
眼鏡がね 無ければ先が 見えんとよ
めくばせで 今日は良かよと 合図する (wink)
巡り会い あれよあれよと 夜半の月
目覚しの チャボが時には 朝寝する
目覚しより 早よ起き過ぎて 暇潰す (心配ご無用)
飯前に 下げて頂く 御仏飯
飯や要らん 流動食で 我慢する (アルコール飲料)
飯ん菜 期限切れは オレの皿 (検査役)
飯ん菜 山菜あれば そつで良か
飯ん菜 高菜漬け物 あつたかな
飯ん菜 ワラビにタラに フキにツワ
珍っさ 股大根な 男ん子
珍っせ どこそこ眺め 去る来つた
滅多なか 鑑定結果 柿右衛門 (家宝)
目出度さも どうろこうろの 俺が春
目で判る ちつた気のある 如つとん
目に見えん ものにも感謝 あればこそ
目の合うて どうも包丁 入れにつか
眼の手術 娑婆が綺麗に 見え過ぎる
芽は摘むな 子どんが好きに させてやれ
メモ帳を 置いた所ば メモしとく

メモ帳を 探す間に 用忘れ
目をこすり 捻り鉢巻き 受験生
目をこすり 火熾し吹くばつ 炊きつかん
目をこすり 間違いじゃなか 大当たり
目をつけて 一番成りは 鳥の餌
目をつけて 熟るる端から 突つ抉る
目をつけて 素質見込んで 後継がす
目をつけて まだ伸び代を 持っている
目を細め 字の小もうして 読みきらん
面倒か 聞こえん振りを 決め込もうで
もう飽きた 三日も同じ 貰い物
もう嫌 草引きばかり また生えて
もう嫌 透析針は 見とうなか
もう嫌 飲兵衛亭主 朝帰り
もう嫌 来世は他ん夫が良か
もう要らん 三日も同じ 菜ばっかり
もうおまけ どがんでんよか 息しよる
もう遅か 積もる話しは また明日
儲け出し 二次会場で ハバ利かす
もう来らす 長夜を待つて 夜が明けた
もう懲りた 悲惨な戦 しちやいかん
もう時間 話の続きは 二次会で
もう終い 嬢に杯 押っ盗られ
もうしまい 釀めて飲うで 帰らした ネット句会3月
もうしまい 人手に渡る 家屋敷

もうしまい 昼の分まで いち食うて
もうしまい 年金日まで ツケといて
申し訳程度 さつと一降り 通り雨
申し訳程度 ボーナズ擬き 配らした
もうたくさん 言い訳せずに 辞めちまえ
もうたくさん 浮気相手と 幸せに
もう頼まん 長うかかつて 高こちいた
もう頼まん 値段がたなか 不細工つか
もう頼まん 吾がでしたが まーだ増し
もうちつた 増しな男は 居らんどか
もう一寸 まあだ納骨 しとうなか
もう慣れた 寝言歯ざしり 高軒
もう二十歳 自分の足で 歩かじや (自立)
もうは寝ゆう 午前様にや 付き合えん
もうよかる 釣つても料理 しこなさん
モグサの火 知らんどぼつて 燃えとつと
もだえんか 早よ取り込みにや 雨ん降る
もだえんか 三步以上は 駆け足で
もだえんか 待つとき得んで 果行くぞ
もだゆんな 急いては事を 為損じる
持たん振り ここは甘えて いちちよこう
持たん振り テロの策略 躲しよる
餅や搗いた 掛や払うたばつ 歳や要らん (正月準備)
勿体にな 食い残すなら 余計取んな (取り皿)
勿体無か 遂に我が家も ゴミ屋敷

勿体無か 履かれん靴が 何足も (急成長)
勿体無か 餅肌じやつて 塗った繰り
勿体無か 優勝チームの ビール掛け
以ての外 くだり向きに 青二才が
持った人 使い上手で 貯め上手
持ってる人 期待する人 裏切らん 熊日2/25掲
持ってる人 ここ一番で 仕事さす
持ってる人 さすが持ち物から違う
持て余し 何時もサンデー 暇と金 (悠々自適)
下暗し 近して見えん 吾がマツゲ
戻られん あの世はそうにや よか処
戻ろうか 女房の角が 目に浮かぶ
もとワルが 儲け出あて はばきかす
モナリザが あつ俺だけに 微笑んだ
モナリザの 怒った顔が 見てみたか
ものしずか いつもにっこり 聞き役で
ものしずか 出席してにや おんなした
ものしずか 端が急いても 狼狽えん
ものしずか 太か声どま 出さっさん
物好きが 犬の喧嘩ば 見に行かす
物好きが 他人の世話より 早よ貰え
もの見事 餌だけ取つて 逃げられた
もの見事 大横綱を 裏返し
もの見事 小兵業師の 上手投げ
もの見事 師匠も喰り 太鼓判

ものは試し 一日主婦を させてみる
ものは試し ドローン試乗 してみたい
物忘れ 晩酌だけは 覚えとる
物忘れ 惚けじやかと 負け惜しみ (初期症状)
もの笑い 知ったか振りは せんがよか
貰い物 タダより高か 物ななか (倍返し)
貰い物 何事じやろか 赤飯は
盛りあがり 同窓会の 朝帰り
貰うてね 年増の私で よかったら
貰たまま 埃被った 引き出物
文句言い 腹が減ったら 食いよった
文句なし 真央ファンからの ハツシユタグ
文句なし 見る目は同じ ジイ難度
文句なし 息子の嫁に 貰いたい
文句なし 家内にやとても 背けない
物足らん 味見してみる 塩調味 (塩梅)
物足らん 今いち味の 薄かった
やいやもう いつちやったとは 太かった (釣り逃し)
やおいかん 娑婆の荒波い きゃー飲まれ (波瀾万丈)
やおいかん 惚れた女房 惚けじやあた
やおいかん 娘三人 嫁がする (破産する)
やかましか 言われたくなか 若造に
やかましか エレキバンドの 稽古げな
役立たん 食うばっかりの 加勢じやった
役立たん 番犬のくせ 尻尾振る

役に立つ 人道支援 お礼なし
役目終え 漬け物重石 なった白
役目がら 見逃す訳には いかんたい (検問)
野菜ぎれにや 虫の喰わんごて 葉掛け
野菜づくり 吾が口よりか 子に孫に
野菜畑 肥料はみんな 草に効き
矢印に 誘われて行く 遍路道
安かった 買うたばってか 仕舞い込み (消費は美德)
安過ぎる マシな仕事は 無かつかい
休もうか 切りの良ければ タバコしゅう ネット句会7月
休もうか そろそろ電池切れしそう
痩せ我慢 遠慮ひだるし 伊達寒し (伊達の薄着)
痩せ薬 飲うで効くなら 安いもん
やぜらしか ブンブル蠅が 集つとる
やぜらしか 外野席から 野次りよる
薬局に 卸すしこある 飲み残し
やととこせ 子がそれぞれに 食うていく
やととこせ 大学までは 出したとに
やっぱ近所 洗濯物も 取り込うで
やっぱ近所 初物ちゆうて お裾分け
やっぱこれ 自産自消で 味噌を搗く
屋根の上 太陽光で エコライフ
屋根の上 電気つくって 加勢さす
破れ口 人の口は 塞がれん (戸は立てられん)
山仕事 自家発電で 暖まる

山育ち 生きる力は 半端無い

山育ち 潮騒の音 眠られん ネット句会8月

山育ち 松茸採りなら 任せとけ

ヤマドリは 頭隠いて 尻尾出し (雉の隠れ)

山登り 腓返りが 癖になり

病み上がり 口濯ぐだけ 飲うでみる

病み直し 大事なつれに 付添とつと

止むを得ん 赤字覚悟で 任せたつ

止めきらん 一本ちゆうて 吸い出した

止めどころ あと一杯が 欲しかばつ

やめなさい 原発回帰 まだ懲りん

やめなさい コンパで酒の 一気のみ

やめなさい 優勝しても ビール掛け

ややこしか 旗振りばかり 多う過ぎた

ややこしか 曲がり損ねた ばつかりに (カーナビ)

ややこしさ 読めん名前ば 付けたもん

ややこしさ たったこぎやしこ 貰うとに (補助金申請)

ややこしさ 本当え買取り すつとかい (買電)

やりたい放題 俺が角界 背負うとる

やりたい放題 数の力に 物言わせ

やりたい放題 資源開発 軍事力

遣り放し 休肝日なんの あろうかい

遣り放し 飲み放題で 二千元

遣り放し 飲んで良かとは 医者言わん

遣る気無し ギターの弦は 切れたまま

やるしやなか 雨は降る降る 糶干場

夕涼み 蚊が俺の血で 酔っぱろた

夕空に 特攻偲ぶ 赤トンボ

Uターン 定年族が 故郷へ

良う出来た 籠はメジロにや 棲まわせん

良う出来た 飲み比べする ヘゴの露

良う撮れた これは遺影に 取つとこう

良う穫れた 地の神様に 上げ申う

良う持てた これから先が 正念場 (耐久性)

良う飲うだ 早よ寝てしゆう 早起きば

雪達磨 転ぶたんびに デブになる

諭吉さん 直き果行かす 羽付けて (万札)

揺さぶつて 爛瓶滴 滑めらす

揺さぶつて 内臓脂肪 気にもせん

譲り受け 似て欲しくない 遺伝子も

譲り受け 金にならない 山五町

ゆたーつと 湯船に浸かり 猪口片手

揺たぶつて 汁は零べえて 仕舞うとる (出前)

湯湯婆の 用が済んだりや 蹴り出され

指舐めて 障子ほがして 覗きよる

夢現 覚めないでくれ 良かところ

夢現 幸せ気分 覚めないで

夢の中 ちようど良かところ 揺り起こす

湯餅喰い 喉え引っかけ うう騒動

揺り起こし ああせからしか またイビキ (安眠妨害)

揺り起こし 息しよらんで 世話も世話 (無呼吸症)

ゆるつとして 按摩機かけて 眠りおる

ゆるつとして 我が家の風呂が いっちよか

酔い醒めの 水は甘露の 味がする

ヨイシヨツと 今日のエンジン 起動させ

よく聞け 口は閉じても 目は開け (開眼)

様態して 足踏み先も 無か如る

良う出来た 籠はメジロにや 棲まわせん

良か足湯 水虫菌の 養殖池

良か塩梅 酒ん菜まで 下げて来た (持込)

良か塩梅 降りもせんなら 照りもせん

良かいちり 気遣わんとが いっちよか

良かいちり 元気浚刺 夫婦ばり

良か潤い 野菜作りにや もってこい

良か男 話し下手じゃば 気前良か

良か女御 氣立ての良さに 惚れ込うだ

良か女御 見とれて嬢に 抓まるる

良か家内 長年経てば おつ家内

良か気色 蚊にもほろ酔い 分けてやり (献血)

良か幸い 親の居るはぎ 同居して

良か者良か 稼ぎ足らんか 天下り

良か正月 家族揃うて 初詣 (健康祈願)

良かたいね ちった加てて 送ろわい (孫への贈与税は免除)

良かつたね 親に似らでん 器量好し

よかつたよかつた 命あつての 物種ぞ

よかつたよかつた 瓦礫の下を 這うて出た

よかつたよかつた 怪我しただけで助かつた

良か日和 雨ん降る 天気じゃか (天気は晴れ)

良か日和 ドライブしゅうか 何処なつと

良か日和 窓から布団 ベロを出す

良か日和 窓にずらりと 干す布団

良か日和 胸の空気も 入れ替ゆう 潮騒 31

良かもんか 生活保護で 弾きよる

よか夢は 録画でくれば 良かばつて

よかよかと よかを聞き分け 納得し

良か嫁御 今ほどがんちゃ よか嫁御 (賞味期限切れ)

良かりいろ 偶の休みに 割り込うで (邪魔)

良かろうば おりげ泊まりぎや はちけえな

良かろうかい 年金貰て 役立たじ

良かろもん 最後はいつも ラーメン屋

良かろもん たまにや二次会 つきあえな

良き友よ 君が居るから 俺がある (友は良き哉)

よく言うよ 他人の失敗 吾が手柄

よく寝てる 抜くに抜けない 腕枕

欲づいて どしこ長生き する気かな

欲の無さ 食うていくしこ あれば良か

欲の無さ みんなに分けて 仕舞わした

欲の無さ 吾が食い分も 子に孫に

欲の無さ 吾が分け前も 他人にやり ネット句会 3月

欲張って 心は二つ 身は一つ (分身)

欲張らん 財産よりも 銭がよか

良ござすか 目籠担どんの 鯛売り (行商)

善し悪しは 臭いで解る 香の物

寄せ鍋で グチグチグチと 愚痴煮詰め

止せばよいのに 違法カジノで 五輪ふい

止せばよいのに 吾がじゃ若つかて思うとる

様相悪しか じゅっかり入って びしょびしょに

他所行きに うったつまでが 暇要らす

他所ん飯 角ん取れて 丸うなつた (出稼ぎ)

他所ん飯 やっぱ食たがた あつたばい

涎繰り 牡丹餅いお経 上げよらす

酔ち食ろて 泊まるホテルば きやあ忘れ

寄つてたかつて これも似てるぞ エンブレム

寄つてたかつて 東京五輪 ケチ付ける

寄つてたかつて 出る杭狙い 扱き下ろし

酔つぱらい 刺した蚊まで 酔つぱらい

世は様々 テロや戦が 聖戦か

世は様々 防衛してよ 金は出す

嫁貰て よつぽど嬉しかつじやろだ

嫁るなら 増しな男ば 選ばんか

読めん 俺にだけだと 言うといて

読めん なしてか白髪 染め出あた

読めん ハシゴの後に 寝返つた

予約せにや 施設の空きも 後わずか (予約殺到)

与野党で 互いのアラの 探り合い

よよんこて 三本足で 墓参り

よよんこて スマホ捲り 様になり

寄り掛かり 駄目よダメダメ 独り立ち

選りにもよつて 名前が同じ 妻と母

選りにもよつて 元彼の子に 嫁がせて

夜の町 足の向くまま 赤のれん

夜の町 街頭補導 して廻り

夜の街 ちよつとだけよが ついハシゴ ネット句会7月

夜の町 何とはなしに 足の向く

弱つたな 妻のクシヤミにや 敵わない

弱つとる 胸損のうて 反吐の出る

寄んなつせ 丁度刺身の 小切りたて (土砂災害)

夜んのふて 雨ん降つとん 崩えんどか (棺桶)

楽しゆうだ 一番染は 棺のなか (棺桶)

ラグビーを ひとりで背負う 五郎丸

埒明かん 領土問題 ラチやテロ

らちは明かん 維新の真意 嘘ホント

ラチ家族 村度するも 手にや負えん

ラッキョウは 食いたかばつて 臭うして

ラブラブで 相合い傘で つんのうで

ラブラブで ストロー二本 頬寄せて

ラブラブで 一つの皿を 半分個

ランドセル お下がりののは 僕一人

ランドセル 玄関先に 投遣つて

理不尽を ぐつと飲み込む 強かさ

利益なか ありどころもと 頼み過ぎ

領収書きつてと言われ 印紙じやろ (切手)

料理好き 味見だけっちゃ 腹一杯

料理好き レシピは総よ 脳みそに

料理より 器を褒めて 帰る客

冷静さ あの笑顔とは 何じやろう

礼服の お世話になる日 葬儀だけ

レリーゴー そんなまでよか 気にすんな (Let it go)

ロアツソの 勝ちはどうやら なかごたる

蠟燭は 我が身を減らし 人照らす (心血注ぐ)

陸でなし おんぶに抱っこ あまゆんな

六根の 清浄なれば 存えて

吾あが死期 判っておった そうにある

わあ臭や 屁は肛門の 欠伸なり

わあ高つか もちつと安う ならんどこか

わあ太さ またボリューム 上げとらす (ハイビジョン)

わいわいがやがや 時間の足らん 同期会

わいわいがやがや 生徒は話 聞いとらん

吾が家つちや 置き場んなか 粗大ゴミ (廃棄物者)

若返り 衣装化粧が 派手でしよう

若返り 白髪もシワも 隠しとる

若返り 輪に跳び込んで 踊り出し

若くはない うったち晴れのせん家内

若くはない 歳と言われりや 腹が立つ

若くはない 三次会には つきあえん

吾が手柄 言いたくなかばっ 恩知らず

吾が手柄 嘘八百を 並べよる

吾が手柄 失敗全て 他人のせい

吾が都合 時にや数えで 使い分け (満年齢)

わかつてない 俺には俺の 主義がある

わかつてない ことば通り きゃあ受けて

わかつてない 娑婆は一人じや 渡られん

わかつてない とやかく言うな 俺の趣味

わかつてない 吾がじゃ上手て 思うとる

我がもの顔 猪親子 お通りだ

我がもの顔 玄関先に 巣をつくり

わが家には 三人が母 経験者

わかる人 決つして面に 出さっさん

わかる人 ちやんと面には 書いてある

わかる人 人の痛みと 優しさ

わかる人 目が合うだけで 領かす

わかる人 わからぬ人と 分かち合う

解るまい 古米古々米 混じゅうまい (ブレンド米)

若若しゅ エステティックに はまっとる (Asthetik)

分け入って 手刀切つて 陣取つて

わけは無い 顎をしゃくれば 部下がする

わけは無い ビールの栓は 歯で開くる

わけは無い 指一本で キー操作

災いも 三年経てば 福の種 (災い転じて福となす)

煩わしい 僅かな補助の 申請書

煩わしい たったぎゃしこば 貰うとに

忘るんな 義理は借り物 返す物 (義理百遍)

忘るんな 戦後の暮らし 惨めさを

忘るんな 不自由か時も あった筈

忘れとる 義理も情けも 忠孝も

忘れとる 先祖供養も 墓花も

忘れ物 取りに戻って また忘れ

忘れられ 肩書き取れて 里暮らし

忘れられ 事故の教訓 活かされず

若っからす お世辞じやるばつ 嬉しかね (乗り易か)

若っからす 黒からすばつて 綺麗からす (烏勘三郎)

わっじやろう 内緒にしても バレバレぞ

詫びしいよ 家内の居ない 独り飯

詫びしかね 卵飯じやい 冷や奴

笑い声 いつも絶えない 孫の居て

笑い声 いつも仲間の 真ん中に

笑い声 今なら小遣い 強請らるる

笑い声 俺も仲間に 加ててくれ

笑い声 聞こえる方へ 駈け寄らす

笑い声 健康家族 医者要らず

笑いすぎ 横っ腹の 引きつった

笑わば笑え 末は博士か 大臣か

笑わば笑え ボロは着てても 持つちやおる

笑わば笑え 吾がじゃ上手て 思うとる

悪かった 謝れば済む ことじゃなか

悪かった 反省します 猿ばしか

我先に あばつきらんごつ 大食らい

我先に 幸運掴む 福男 (西宮神社)

我先に トイレにダッシュ その早さ

我先に 特売場に なだれ込み

我先に トレイ山盛り バイキング

我先に 流行病を 仕入れとる

悪かねエ 俺の遺伝子 受け継がせ ネット句会2月

悪仕掛け ドンク跳び出す チョーク箱

悪そして 覚えん無かこつ あるもんか

腕白が 横道っこする 学校路

己だイヤばい 先に逝くとも 残つとも

己だ知らん 関わり合いに なるごつにや

美味かった 誉めたところが そればかり

美味か物 後で喰おうと 腐らす

美味か物 喰わする者に 下心

美味そうに 盃片手 舌鼓

